源氏丸中

中 三尼五

源氏九帝表第三

よ

一ようのことあるとき　内門度行事。未伏ろで記す也

一ようのことなり　河　ヨリ上ヨリ　去授　下ものさすなり　縁者　エニシ　餘情　ヨウセイ　二説也

一ようもとぶべし　不　フ　然　ネ　不　ズ　若　ロ　あしくせどとゝ云人也

一ようのことさとしたぶ　さまをそなたるやうなどぶ也よ

ようのことの旬宴ハ内ノ宴ハ行事ハ　ようのことの行事ハ　ようのことの行事ハ

ようのことの行事ハ　ようのことの行事ハ

一ようもとぶ　遠のものをようもとぶ也

一ようのことを内ようやうもて　横死　ワウシ　人のそなたをとどめて　元

もろもろ也　一ろうれいもとで　疫病也　法深房
よりはじめ　ろうまうまうなる　南ハ　大事　戸一同　有り
一世人　この人　この文字を　解て　ほうもんで　婦字　多院の　出諱
世仁　ヨト　ヒト　也　恐　あるべし　一ろうそくしりべき　為法ぞ
更衣　ころもがえ　ころもの　也　文　為つぎて　深と　ゆるす　也　無統
一ろうそくひ　ろうそくひ也　一ろうすう　俗也　縁　てんの　意
也　ひとり
一ろうのつねの　ひとりごとまひそ
ひとりべきこの　ものを　ひとりて　ゆるべきやうに　ものを　人を　いつる也
一ろうもり　ろうもり　ろうもり也　一ろうもり　ろうもり也
一ろうさん　不遇也　一世を　ひとり　あやうに　人　ものを
独　ひとり　心

あるある人の　やうに　ものを　一世のことひとりて　継母　継子
あひさるれば　ものを　一ろうびゆ　ゆびこ　ろうさ　ものを
一ろうみびより　穢生　又活　一ろうそそ　女の　それ　ものを
ものを　ものを　あるべて　ものを　ものを　ものを　ものを　ものを
一ろうひのほぐ　ものを　源氏十六　ものを　自　不　女
一ろうびあ　わ　ものを　あ　一ろうべさの　ものを　ものを　ものを
ものを　ものを　ものを　ものを　一ろうびつ　過　ものを　ものを
一ろうのれ　ものを　ものを　ものを　物語　出　ものを　ものを
一ろうびつ　ものを　ものを　ものを　一世　ものを　ものを　ものを
時の　変　ものを　ものを　ものを　ものを　ものを　ものを　ものを

一斉ろ波の　ひものゆるくやとけ源の鉄さてよりろ
一斉りょうちのく　ちるべし成。ひろ文ようようへつる也
一斉元の文　一世よ三くゆ世る世ろ別也一世の中くくりて桐壺帝は
位を米雀へゆづり給ふ也一世のさがと世のちくひも悪
の字よを万葉よ用　一よ河乃伊勢中文の仮名
恵心僧都号横川僧都一よくくあくどいでくめれい
源氏太平のる世べ。発后ちどの八文のるをりよ医
給ふ也。字源の表よ見てさり一ろ波よ　は浦ゆて用ゑ医
ろ表ゆれば。ろ乃ろ文也一ろ　さまるゆるべ也中文
弄ろ伊ゆるべし。同じ。家のゆびゆの家人のる也。廷尉伊

別當の下知。ろ文ちり一説ひろ久玉の史記曰
尚有徑寸之殊。照車前後。各十二乗。楚王臣隋
侯。蛇病愈たりしる。ゼすのゆを含て夜ゆて。息
を報じりり。隋侯は玉を得て。楚王よ献ぜ。夜中
よ常よ有光明故名夜光玉
一世ゆてろ伊ゆるさ　仏文道。瑞要をゆていり
一ろ久ぬるの　松ゆゆるさほ。さる文ゆ。ゆ文ゆ。ゆ文
一ゆ文ゆ　ゆ文ゆ弄良房のゆ文ゆ例ゆて。ゆ伊馬をり
る。後代よ例ちゆる文を河海仏。良房ゆの乃
弄ハ乃見さ。ろ文ゆて文ゆべ

一つまちとまりて　うしほの和泉の郡なり神
なひのうれはといふ名所　吹上の浜なり　西面八
町の間　堂檀藤　苔　ちりひ　ちるぐ　ちるを
桟木　て　金　張瑠璃車　渠　馬瑙　ほ　色　花
つまくれて　車　陣　の　こ　に　春山　南入陣　の　ち
夏　の　色　西　の　陣入　と　ハ　松　の　林　少　ハ　松　の　林　四面
と　咲　ち　ち　ち

時に人なる不怪なるものも邪鬼をそれのうめに三尺ばかり
くく遊ることいりぬ多の用をさハもしのうるびをつるに
かるる也それをみるあるるこ一ばかりなるこ 纂荒水暗螢
知夜朗泳蛍火をもつ源ハ出ものの源ぐ
ひるを不清ものも
るくしてぐざあまぐくるる事也
一世ばかりとも 八きさ月ものもとくくくくハ人ものの世をとくくひるる
をの物也 冷泉ハ山ハ人ものくくくくどもくくくもさるるるくくのんも
一ばかりの山の後を 高をとをもつ西ものよひ河あり
一世ものたりるに 大蛇ものくくくくの中に炎炎。玄安るをいつ

一ばかりのり物 賜ハ儀ものとすることつる也。賜ハるもの物也
一ばかりくくて 物ばかりをたるものくくくく

一たんぐさ　那堪

一ぐさゆく　まりつ　八分士や　玄術士ぐさもの　玉のあつと

八更衣の　竜髭　ものつり　一大海の　芙蓉　未央柳　見長

大海八池の名。芙蓉八蓮の別名。未央八宮の名。蓮

花柳。楊貴妃をもへるべし

一大家ものはと　葉中　大家ものとて　机

をこそ　膳をゆもの。是八常にいまつり　傍ものお

ものハ　膳をもの

一たいく　元　退く姿

一たんぐさ　一たくよハさ　五漂

移改　開白　帝　代　つり八

只人ものの名。親王の名　限りつるハ　面さう　絵とも

一たんぐさ　便　一たくぬべき　絵もの　ある　絵

一たくるつてハ　八のあるこ　じとすべきひとへ

一立　風　ものの　ものどもの　深おしくるハ

くるものとへ　一七夕　ものもの　ものもの

もとくもれもの　一たのめくろ　形もの

一たくもれ　方便　一たくくく

一大ゆまつ　さゆまつめやとも　ゆまもハ申ハ也

一勝口　あがりのこと　禁中ハ武家の家法也　武家ハ武者所と云也　院中ハ原の番の者と勝口と云なり　一大ゆまつ　大徒也　勝る法也

一たもり　たもり　桜　人名

一大炊　炊　人名

一大内　内裏也　内裏ハ大内と云也

一代の内ハ代々の内ハ代々の内ハ代々

一花の夜人行て花鳥会　先中上儒者奉仰獻題
次書韻字盛中境置庭中文基上近衛次将
先探御料韻王字置苔盃昇自御前階
獻之次王弼堪属文者文人ホ各進文室歌探
正字見之妻宮性名及歌探字也今案探韻
八各一字詩也悉韻字也故懐紙端作云
春日同賦春夜歌拈花各分一字應製詩
探得其字ノ如此書へきも　一大将の云　大将八条儀
ゆるし　相撲で桑ぞろ織也源氏八式部卿議大
将也。宰相ノ桑木将例藤原房前。冬嗣ノ常行

一条摂政
条儀二人の内一人ホてあるとも　略之
一大臣の云とうも法て後。養二の宮房ひくこれ息ホ
と源乃ち妻のもと世とうもと又ひの云乃ちう
ものもとれとも
一たさうるのと　掾彰及菓祓隨時恭敬與堪婆
一たくぐもと　ぐ成ろ也　一たぐこれのくまゆく
天迴　玉鑒雲格霧唯是西行月不遷花
一たりちろ迴　五カ条三同新草堂石階松注行
編墻白氏文集
一たさのくるぐ　弾碁

一弁 たりうるに ちうざうるに んや。為ようとへうり

一たまもとちどく 海魚なたくりうる。玉堂衣ハ後撰よりあつ

弁。女の拾衣米をうづりうり。蒙ハ女のさわつまつ物也

一ちうざいのれてのハ ちうにんの乃ハ女。舞ぶのうりうも。義

香殿女ハ戸ハ殿よりまれ給ふ也

一太上天皇より弁 ちつが尼より成給しうべ。皇太后ちど

りぬべさるうれば也。河海本朝太上天皇ハ持統ちうと

始る。女帝也。為ちの女院乃ぶる長人。持統の例ちう

元義る女院義ハ。ハ信より弁ちつさ給りで院より始給ふ。小一条

院ちと云ハ。太上天皇のうちとうち給ふ。位封戸

年官年爵ちどハ義異ちとうれば。ちうとハ

中ハ為也。封とハ封戸ちうに。三ぐ〳〵各ちの百戸

ちるを。太上天皇ちるぞ〳〵へて。二ちの戸給りうる也。

院司ハ女院ぐ〳〵ちて為給ふ。さとる列官代主典代

ちど也。三宮ハ太皇太后ちう。皇太后ちう。皇后ちう。

一たゝの為ちの月石上神社一たりしうう 顔聚山ぐ

りうりうりうりうぐりうりうと。民氏河原ぐうう也。ことひ

と同音。せうをひとううぐと。河原ハ織女

一弁 王ぐ〳〵やぐて為海ちんとうやちうりんハ。折ちと言道

祇神と照覽あれとも。ゆへぞ知べし

一塔うぶちくる人を。髑女真女なりと。くるくるとてあれば。人のくるひとまとて。塔の壁をうぶちて。燒あるくさまとあり。下うぶちたるまとこもあり。河顏數ゝ多ところ花ゝつくの中納言物語ゝ。下うぶちの也。弄畢竟ほうまるの女のうかべ

一音行どう拍沙也。極楽寺也。髑髏 大芝寺ゝをこてぬとも也。鼻觀十八年二月廿五日。嵯峨院為大芝寺樣雷寺ゝ也。鮮魚ありて下ゝ寺ゝ。川ゆひ。樺ゝ人の袴ゝとゝ。一說ハ主殺袍とて。玉をうぶりてくるる也。

六月の祭とゝ

一大ぐくのうち西ゝ家大臣良相公ハ閑院大臣。後冬嗣公の子也。大臣の息太政大臣と習ひ。ぶの例也

一大將內大臣ゝ。內大臣執政。攝州關白忠義公 義通 天祿三年。十月廿七日。閱。同十一月廿七日。略。修。

一度の月。書つくる法ゝ寺十月丑日。ゝ。義丑二ゝ日。下の丑也。後ゝ一の丑ゝ也。有例。丑日ハ舞妓。入寅日。節。卯ゝ。卯日ハ童女。落。辰日ハ節。の法。節會の日也。辰ノ月の書つくるとゝ不審也。豐明

節會ハ同中の辰日也。若又節ハ行ハれずして。
一たゞちのつゞきにあるべきなり
一大ぞうの元ゝの日　進士　往日。可進受爵祿者也
聖武天皇神亀年。始進士試　系圖　進士及第
例ハ下ハ　暑之　秀才ハ弁一節　乎外ハ
云也。ゆゑに中ごろの中ごろ進士と
一大史のぐん　河　太宰府一員　帥　權帥　武官。大
監二人　小監二人　大典　太小令史等ありぬ。式叙爵之
時。小郷ごとに。監叙爵の時。大史監と号す。大監

ハ。正六位下。小監ハ。從六位。大監ハ。正六位下相當
官なれば。從五位下に叙せられ。大史の筆と
稱するなり
一たゆき　墮　史記　一大ひさ　太　去　觀　喜
一たゆきもしらべきなり　長根　長根ハ。ひとびとの
洞の間。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ

日の競馬の日。雅原寮是を奏せ。勝負の知声
心競馬ゝ云ふ也 一たゝかふに。ゝぐのふ
きゝも同ゝ也。倒せ。ゝれゝゝ也
一たて出ゝ也 一ゝ也 今ゝ也
ゝゆゝ也。ゝぐゝ也
一たゝ也。ゝゝ也。行ゝて隠ゝる
ゝぐゝ也 ゝ桜也
ゝ也
ゝゝひゝ
ゝゝ
一たゝ也 ゝめの 嬪女 ゝ
一太上天皇ゝふ 漢高祖の父太公。太上天

皇ゝ云ふ 元日本ゝ倒ゝ
一たゝき 弟字也 ゝ
一たゝゝゝて 中ゝの大饗ゝて年
ゝゝゝ
花名 二月二日。二ゝ大饗事。西ゝ記ゝ。大納言
白犬 御二位中納言同位一位。桑濃大袴一位。非
桑濃位柳色小袴。文佐 細長一連 略之
一たゝゝ 絲 深 一ゝ 瞬 又 爛
一たゝゝ ゝゝ
一ゝれゝ又 ゝ位ゝれ 松の祇代ゝゝ

そこひ治ぐすこと家ちてぐもぐべきこと人にあたることも

一たくもしもれあそんひのろぐさの事を。清癖鑑章まを
雜文時とあるぐでたるもしもれ今のをゆめてとくべ
一たぐ　大曲也　一立ひて　ん人我を学人
ぐろくさ面あれば柏木れ濁ぐ炭ぐ。女を
ものさひてきくんとも也。それを煙くべとくみ
治也

一たくるか　第也

一ミのたくさぐらくさんぐん　提婆ホニ揉薪及草蔬随
時兼敬ケ薪とあるを我荷て。落人の役ヤリて。五
夜月。ヒトリ行ヒトリ行よひさて。ぬり通ると

一たくさくさくる　樣業級永拾彩設食　干時
奉事經於くの歳くるる歳治くものぬ者。ぬ者ふ
ぐくくくる死くもぐ。後の死
とくも

一ぐ
功とくけくくぐ。ぐ仏入滅ぬれば。常在霊鷲
山のくをあり死我ぬくくる見法仏世くぐ恒河沙妙
典ンに花ちる墨とハ多ハてぐぐてあるくしも

一ぐ
玉ぐあるの　源の縄ぐこのくくぐくまくくんとも

一竹ぐ
竹門の竹沙入面とくくひくるをぐくと云。
竹ぐ入くくひくの句。あくゆるをぬぐくムクハてと

ある人へ送り
く夜ひとりとぢめあり
法ちんと早トうや
らば。家もそらぬ
一たけ多くの墓。
一樵のやとり
行人出白氏文集
て樹多し。今は禁中
南階よりぶりて
新古紙の新茶よ。

一竹ばり結びて
ぶりもの
一たもうん 蕉出家あ
ひとつ
一神祇令水捕網注云
一晨鷄并殘月没征馬連嘶
一たつのそこ 者は法
まで也 答禅は高
議の紙法也。
直殺とぶき

稱めつ〳〵ぶそ
へと云須也。ぶりは祥也 一大西記武戸の補遺
一たけのふ ゆくまま寺とあるべき
云須也
一たいまくもくへ
梵天帝釈。人ありと
利天の道
一橋の橋のまわ
ぶそちくべ
ぶりもとぶ湘
一橋稱て橋りて
ぶそ。ぶのうつ
一たけのちらく、苗の
のやうぶ和琴

てゝ引さゝり

一たゝりとして　親もゞ此中也と都後ゝゝ

ゝゝ行也

一玉よゝゝ寸　玉結　玉結

礼記式に殯入棺ゝゝ

一たゝりとして　殯殮見葬

複生ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

賞ゆてんとうる及第の人々を文章得業生に補
せ是を進士こと云り。或は前ゆて勅をうて
とうて試らるゝ文章生に補しての所さに
方略の宣旨を蒙て課試をとうるゝ
略

一練しのきんでん〳〵ゝ地あてきのふ所をかへ
一れいのゝ〳〵ゝ　うでゝあぎまの額をいり
一れいわう　陵王楽也　一れいをさせ　毎月八日
中堂ゆてせ
う

一そぐのゝ〳〵ゝ地ゝ清
一うゝゝ人　さんせゝゝと知るゝ
のゆをを云
一うひが　花仏寄　横笛
女ゝ
一うゝゝ　足下　先人
とうで　柳
一うゝ　中の
一うの　三の
んゝのゝ
一うむれ　猪
ゝの地ゝゝ

一そぐのゝ〳〵ゝ地ゝ
一うゝ人　さんせゝゝ
のゆをを云
一うひが　花仏寄
一うゝ　足下　先人
一うゝ　柳
一うの　中の
一うひ　法師
一うゝゝ　側付
一うむれ　猪
ゝの地ゝゝ　横ゝ

ゐもとうも也
駒(こま)ひづめ音(おと)ありしと云(いふ)也 一うしはうそとさもあり
一うしさわげてそくらはぞくらはぞくらはぞ

一うしろまはのしをうそなる心也 泥水なく
ぬるの中にすてあるを戦場あるる也 新うぐ
むしの也

一神ぐちもどくうそ元あり
弄路弄の字出しぶ
うとうとうくうすと云也 袖ぐちもとゝ
下ろる女房のきぬの袖と出をる也 今の世よ
を大饗ぎ七日の儀式 ぎ式 いづれあるを
弄まゝ
一うてめるく花 ゑもとゝ泥をひちとうるつきを
ゑ河也 さて袖めるとゝもつゝ田のもやをき
人ちりさまへちどうて泥中に切りゐ物ゑ

是和の歌分歌うあとへ移也
一袖のうへ乃ゑのうぐひすとうん 鶯
一ゑ成ゑ去うう此ゑ
くゝのうちうくさとゑ
一うちはせうゝ 大歌を吟とゝ也
一うゝ公ゝとまうくさやうて。うゝや也
帰来倚杖自歎息 俳諧風定雲黒色
杜詩 桂嶺瘴来雲似墨 洞庭春尽水如
矢 柳子厚待
をぐさ元 俗よろびくとゝうるとゝ神元

一うこんハこれくるま也 一うびやさ 源の時分よ
て流せいをしゆるやさ流ゆるまえとの乱きこと
一うれん今 寛平御遺誡云 今須令文中令
貴二人臣相其子必令来貴 はなとゞめハあれ
どゝ文ハ即ゆまいりしとあり上下略之
一うゑの音ゞハ 法衛のそけ人をつゝ
懐宋 河花参令日主 菅丞相一人掌 御習学
太上 ハ仁徳天皇之位字也。高麗うゝ
初ハ倶知之 也 一うゝ 橘氏 ゆ
義和ちり仁明天皇侍 源 強 姫 の名 傳 男

子と云制 侍従 黒方二方 一 寄 一うのゝ 前 何 文
ハ今といゝてあり。ゆゞ而 文の字。雲井 名の切と云
しゝ今の如くゝ 我ゝ
一うむゞや 一うゝ 大郷食の時 ゆ と云ゝ中ゝ
別てとん源てゝ 唐 名 源 爵 歯の三の内。一つあ
とゞ名 一ゞくゝ ゝ のゝ 外典
一うゝのさむさめ
乞也
樂書曰。昨文之變易 寒暑 孫登之感動風
雷 謂琴 支也 琴書云。昨 曠晋之樂官
也 工於琴 能易 寒暑 黏風 南為 晋平公

鼓を感ぜ給ふ鶴下り給ふ一ときとゝまりあり
ゝこのゝゝゝ

じられどもすれども
一きやうくらう　賄賂　財物
出して官位をのぞむなり
一うせやまとことえの墓
国中扶桑　楚王墓上夜琴声　班女
後よもてられうたぶと
をはむるまゝ　結びハんとられうとも　白扇とあ
能凡て　作しあるもの　可怜
病薤半　数驚人　淫媚狂態三更唱　脆容
一神あれし　者の人分ひあるやうに

と旬のゝ絵ゝ
一そぐろ　坐そぐろ　そぐろ
一うう　鶏也　玉うつ　更　笛ぐうひるく　袂也
一うて　なして　又殺　ても　依　也　慈殺
笑殺と　活ゝ　活ゝ　概殺の字ゝ
一うゝゝ　出ゝ　ゝゝ　天運のゝ
一うハ心ゝ　ゝれハ　ゝゝ
一うひくしさゝ　他人の　ハさやゝゝと云
一ゝ　ゝ
一ゝゝけさ　ゝゝさ　也一ゝれゝさ　狐面

二つと　集　日本記　一つ　鼎　ほぼ　ぶ　ろ　ん　あり
一つ　ろ　ろ　ひ　ろ　ろ　ひ　ろ　ろ　ま　ま　同　ん　も　ろ　ま　ま　ま

一つ　さとをぬ　みのやゝハぬをとゝ　ぬをきて　ゆのひと
一つ　かさゝぐ　新女房　秋除目也号
ゑとり　一つ　くさめ
京官除目　春除目者　号縣召　各孫任之
髭春者　左改官　廳　状者　於外記廳　石作文
仍稱官召　教隆　弄　八月也　長ハ　ぐくり　秋ハ
つくさめ　とひ　ゆ　一月のまも　重ねもとけて
内禁中　ゆ　ゆ　ゆ　中文の出家　まして　仰利天
上ちどり　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
二つ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

こゝ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
と　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
あれば　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
文ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
一月のゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
風気　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
若葉　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
一つ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

一つ やくにたつことなし 貧窮 清掃地と東坡詩
一つ ものうえさせと をそろへさせる 煩費
一つ くれの日を ゆるす風 甲斐なくば根こそ
風ふくとゆるさんとの事なり 書陸ちれば
一つ ものうちを 常則
八書士道風ハ能書也 一つ ものの
不審のわよ。仏ざうを ものを
ぶらぶらも
一つ ものの弟 原本改たるて。節倉もの
仕るべきとあるぶらぶらも

一つ ものの毎よのりて 放嶋の義ハ詩ちぶ人ハ離
量ものとともものもぶらぶらすべちげもと人
河 紋強試芝也 一つ 厩 注ちぶも
一つ やもとくもと弄 つやハくのかまもも
一つ ものの やうみて花角ハ秋いひ花と秋ハ
やうひてはぶらぶらもとも弄 ケ
人の戸後芝ハ言をそへていとんこも
一つ やくにをもしきんと一つきうる 笑うも
一 月ものうち 女のうハ乃文ちぶ。金月とちぶ
しもも 一つ ものちも 核のもに

入る餅也

一つ 冷水に浸されて 元和奉

也 大敵をば ほうれんそう

一つ 蕪を煮て とうふ

一つ やくもちゐ也 一つ 道地の肉桂 仙

洞入

一つ ちくさ 不孝者 初ハ

一つ 蕪の ちさ 弾指 一つ 仕方 素

ちんぷ ちゐ也 一 春の ほうき 藻の 味噌

穴 蛇の 話 魚の 吉 と ふ

まぐ 拍木 ふ ぬ

の 吉 を 法 ぺ 雲 抜 ひ れ 竹 文選 長 笛

一つ ごとも 蟻 同 前 青 根 積 ち

一 ひ 人 者 下 禁 中 を 冷泉院 ハ を

新 れ だ 泉 の 宿 の 杜 ぢ ち 早 下 ば

一 ち 志 の 深 あ れ 橡 長 の 時

の 毒 也 一 れ く と 虫 の 声 ハ 蟬 也

一 ち の と ち を 六 条 院 紅 の ま れ

一 ち あ ち ち げ 恙 也 虫 の 名 也 食 心 騒 と ち

一 れ ち と 史 記 曰 季 れ 之 物 使 ハ 過 除 君

徐君相季子札劒口弗敢言。季子札心知之。為使上
国未獻還至徐。徐君已死。於是乃解其宝劒
帶之徐君冢樹而去。後者曰。徐君已死。尚
誰予乎。季子札曰。不然。始我心已許之。豈以死
倍吾心乎。呉世家

一つてよ　ものもく

さめとぞ　たまの　ものよ　ものもく

一つくも　礼祭也

一つまもり　指也

一ねとるハのむ　後撰十六　ものもうこと　ものもう

ハつもしやとアハのもとなれば引奇別ニ

一つくされの　人よろく　拾　蓋　古俗あれば　ものつくされ　ものもく

中将かねるどぞ　ものもう　ものもく　ものもう　ものもく

一つくもむと　ほ舟ハひ　ものもう　ものもく　ものもう

つくもやとめり

一つくさちぶの　ものもく

ものもう　ものもく　ものもう　ものもく　ものもう

ものもう　ものもく　ものもう　ものもく　ものもう

ものもう　ものもく　ものもう　ものもく　ものもう

ねさまをねさしめも　一ねさまを法ゐまたに中門
みそのゆ　一ねびきて　鼻のさきら
ねさ海也　一ねさねとは　まさねてハ
みなどもとも　家ゐまけ　さるべ　なつぐを　ねぐ　出て。
ゐるとのゐ入りゐ　弟ゐ根ゐ。寝ゐをゐ入ゐ
一ねひ人　年ゐ　ゐ入ゐ　一女　別當　歌ゐの女　別當
し　延喜式ゐ　ゐ　ゐ　

さて坂。京極のうわさてあるよ。ひけつえん良のこ
こは数気

一ねちけさうなこのこ　花
若衆のり素性と後の弱い。程勝こん　祝ろんべし
ねちけさうなこ。ぢさてぐまりきんも。弄ものたよつき
てひごとの知ろんべこさんも。弄　ねちけさろぱろ
らぬこも。筆とひろさ角也。色好ものたよつき
ともも

皆捨離専心後顧の西方
一ねのこと解　ふハ気の豊熟ろこん後てよのこ乃
解と惟光ぐ云。三日祝ひとよのことこよあくそ

な

一なくのくこ　所　菜也やろさ也。或ハろさんべつ四ん。
他ちさひこ　菜字也　一なくぐくさ　平也

一四侍のもの　典侍　尚侍。掌侍。命婦ろさ
よぱ使ろさんとんべ。一ちさ人のもこさ乃ものを
ん　傷夫妃のもを云ろ。ハカ士ハ既よ者ものあひ
てぐんざーをあてうへ。去ものもこさ也ろ。ハうん
ざーだろ也て交ものよハ食物ハあくさんべぐくの弱也
一中こ　久ものてこさんも也。世保よ云中こ也てハ
一なこもろう　家婿　生花あ也よくよ二のん

あり。橋こうと云。女郎花の者ども。又生の者と
ちまきあくと云。ぱをあくちまきしくうちうちも
一ちまずひようちうつくと一なづきひちれもめうたと
時節 一なめ 江礼
胡瓜 一なのづりよりもとはつてどうとし法 長橋うちは清源
一なのづりよりもとはつてどうとし法 長橋うちは清源
ちうう。紫裏屋へうう。廊也。ぱ下の東の者よ
ちう階橋ありう。ぱ橋ありてぱ家へ向て蒔蹴
しの也。礼義也 一なうひう 篠也。又やうう
ク也 一なうよれ ぱやうやうの
義也 なる様人のりんうちめ 長八柱ぱうとうう人

なれどもうつくちまどに物うとうう。ぱ人 法華
一なまく 花 なまくこなぱ。ぱくうまのありちうん
一なうと ちんちりとうもべ
一なうと ちんとうもべ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ
一なる紙しぢうちまのとうもべ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ
こう紙略ぱうちうぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ
よちまりとうとうぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ
一なのうくうやうくうちう也一なのめに たうまうとう也。
十なちまうぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ
やうやうと云ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ

一なつびやうぶくるまん也一なつまつへうろく 媚心
一なつふぐ 馬刀(カミ)ふぐ 地名伊勢八人のうまとそ
の伊勢一説ともいふ元亨ようる也
一なつそうとう 伊勢ものゝ云ふ也 なつそうとう也
ゐど云ハ弱(ゐん)をべきうする紀女などいつべ
一なつ神ようらうよりあくうり 四裏ゐる也 ただ伊勢
のはまへ大さうくるる也 伊勢ものゝ也 二
条院也 大内ものゝ也 天一神とゐうり
中央(オウノウ)の神也 長神 安倍也
一中門のまうり 今れ系 藤門也

一なつけしのまと 伊勢ものゝ也 一なつうけ 高ゐうる
しまあも
きうこうはやよのちうぐ紀行也
一なつまこ ちうまこ
一なつあうち をのはりまこの紀也
一なつあくあくしうはまさて ひうへうきれのこと也。
はりよ不二(フニ)ものとうり 一なつぐーろよ うろの
けくこのあくこうる也 一なつ紙くきく ちうる也
ちゆきうと四ん 一なつのそぐひうぐ
のちうさけづれをちはるけやまさ海のん也

一なかのもとい農せつらは一なもとらへ　金剛
藏王權現を玄又迦現在觀音鬱來弥勒也
弥勒出世の時地よりくべき今を由りなる也
一なぶーの院　そんじやうそるどりつんと河原
院なる也
一なぶいめん花彩一新よ
内陰時のもを奏もそ。それのち結びのなぶいめ
んおり。名聞をりつ。賀よりのあせる結びなぶよ。
名をとそれてなるもびつよ。ぶいれとの者
あるところ
一南原のもとよ世繼よ。鼠
信仰のる。武法原の仏法と。鼠信仰ことをる結

時。花のはるくるものあてたかを祈てりるび。勅使
ちりとのあへかはるるもの一なふるるぬはるのり
一なもぎりなるれる也
一なもぎりなるれる也
一なもぎりなるれる也
等閑会はるるあるもを
一なるくるもと　弥勒の世を待ひーと云結
うやのれの世よりはるる世のる也
一なふぐーの伝記　光恩伝記。長久小伝記見
蒙花物語
一なぶーのさけ　富士よ
射ーてへぶるのざけら也
一なきりちるなへよるるゆは成人せばのる也

一なをふもとをぶ いろはやせ。古今れ序 よめまくふへ
の神とこそ
一ちどりちのあちろことぶ
けすぐつまこ庵ちぶろとろん源氏のつよ。紫式ぶ八ぶ
とぶりちろろゆとまぶ。ろう絵ワでもぶれさろぶを
ろうあ内光ものふとはめあふんや
一なでーこ絵えぶぶ三ろうわとをりきろふに
ろでーこ八王ろうれる。ぶとちきろうん初やしぶむろ
ん七ぶのろうむべきん初や基のろうと同ん也
一なろうさぶのまち 中たのとちれ活ふとも也
一内教訓 昔八大内ゆて物絵とりしとも也。大宿とろへ

ま。女房の愛の文をし。又絵ちどちろくふとも
ろう。今物とこのねとりつ内ぶ。むーろ絵ろ也
一内侍所 これとりつきぶ女房ぶ。れろ二也。内
裏ふ。天照大神(テンショウダイジン)(アマテラスオホンカミ)まりすて也
一なる絵ふとぶちちろ伝(ジウ)ふぶ。とぶ也のおまて
のやうゆべ
一なちろちろろつきう
ちきけぶのろうきをとれば嬢ふろきろちろ
一なををうろうん。表裏(オモテノウラ)同ぶ二の濃(コヤ)也。ぶ
も同絵(アキギ)也。花ふ。ふるふ絵ふ。ぶとろ
なろう。ぶれるをろ。今やうろろ八。ぶ表(オモテ)
ろうやうろれぶろ表同ぶ二ぶ

あをいかるや

ひるのくるもの。天武天皇十年。正月七日。御宴

十二月。海月。蒸魚。御

一七月。おもちゐたくく。白駒

一ちやうとして　追儺

一ふくさきはあひ　昔のはあるを玉帚。落花

散鶯。通天。などゝ。ぬるを。石帚。などゝ

るも也

中。清涼殿。ぬて。文人をめして。詩を作り。遊

びくらべあり。主上并に。執柄。大臣。御覧

を。保元信西。行て。始終。くるも也

一ちのはをとれ。十の結を中。周中。とゝ。

是。八ちう十まで。八九十。中。結と。

中をはをとるも也。如意院の流。パちう字

ぢ。ちやくや。中のをとぢ。ちくとるも也。

大方中に。細をとゝ。忍得。秘法也

一ちうくばくどや。内侍。中将。の中。終。ばかと

つゝ。ちやくや。て。帝。とゝ。れてゝ。とも也。

とハうこのや。帝。ちくぢうを。帥。流勾也。鈎

一南殿の揺らんそ　南殿揺たらんそ　外花宴
の支　外多支　南殿ハ震殿也　花宴例
饒歌弘仁三　於神泉苑有花宴事是初
也　南殿宴例　村上康保二三　於南殿
宴云　時探韻例　延長四年二月ホ例也
又宴云　宴之例　天暦三　三十二　右之地
下　舞人たちのて　堂上の舞ハ　ちりきく
一なれおくるよ　はまくハおくるとちり
一なりのきうび　みれ出ぬる袖むしまひとるる
ハ　吉俊云　陰陽　陽殿　よりもの也　ひハ
の

年を三度備て　陰へのつま　袖　ちりく
一度の　袖　毒　眠　三月也　源ハ更
袖　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
の　深　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　の　ひ　の　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

る。万葉集等を本歌とせるべし。雑賀
一四方にあり。花
大納言数ヶ所まうでの。所よりあり。
指ゴ
四方をかくしたるを。指大納言とも。
四方をかくしたるを。
き定あれども。
大臣とも。法也。弄物さぐりて。一勘数。
左右の方をも。
の儀をとるべ。一なるべしとも。
よりてそ。中れとも。
ものとも。

どとも。あるは大政大臣ともいふべきを。
一なるふるの法をもて。花代姫八十嶋奈八。那波
うてる。興侍乃人。
除する。
一七瀬。七瀬のこと。今の世にも毎年のこと也。
七瀬の七瀬。
あるは法師をもて。
那波鳥。那波。志賀。鈴鹿。法師也
一七日。
日ちどり。

元和中

一ちごで せのあたれ せちもんがりはどひ給てもの野
女のまどりをきどと。歌院は如給〳〵今をちひ
るをとを祢のつさめ給ちんとのんも
一たりくり 用信ナリ多 たりまたり やたりくり
やたんのちくてちりくりあまれたりとくり
一ほとをきをもとをもとちりて二ほあおうんと
ともやみそうもれ二ほ 或ハ度と 弄 不詳
汎ごりちるべし
障ヲウジもも
又辞ちど。直衣をゆうさるゆうさるゆうさるゆうさるゆうさる

記妙書院相国〳〵長をゆうされまりて
四ともも 弄 六位禁ジ赤ゴ 長ゆうされて行
のうぶりも。うちる球しゆうさうも一移 法院
一なりたこのうち とうこの中れ元ニ云也
一なりれあやま 柳 動池有波文
氷尽用
ちごこ。ぬりて紅梅うち番やぬ花 卯花
ぐうひと云うや 一なりうちとうきうめ
蛍の切りひぐぬ。ひをれは居キエとも
一なりうれわうぐの文しうち若バの文ぬ。ちてし

この蓮のようなどる唐衣也。紙ハ薄黄と。所海よ
いるおとなり
さぶらさぬ衆也
一ケ殘ってあれ　ちとく
一夜の月ちきほどハ　細
夜のうちと涙ってれば衣とひ衣の中もあつさは
ハ夜といふ也
一ちとく　名を惜也
一ちゆき　長斉也。長斉の短冊の事也
橋ってよ　ちとく　侍たこ十一字長斉を短冊とハ
一夜ちとく　侍のこれ夜づくへ　義ちとく　侍の宮を
やうこ　ちとく　一内侍ちとく
内侍　侍　尚侍　典侍　掌侍　女蔵人　四等の

宮ちこ　霜ハ女宮ち　内侍のこれ
ぎつ也
さぶらくちゆへ也
一斉　たこ　一斉　ちとく　其ハ
一斉　ちとく　一斉　ちとく
たこ　ちとく　ちとく
一斉　ちとく　中ちとく　ちとく
一斉　ちとく　ちとく
ちとく　ちとく　ちとく
一斉　ちとく　ちとく
一斉　ちとく　ちとく
小井也　ちとく　ちとく

一陸奥ノ国ニ住ス人ノ子ニ成ル人ノ子ニ成ル人ノ子ニ成ル

一なやましきこと　ちやうしの中に
一竹川なるものをいとうるるものをつくりて馳て辞
しりぞけん　南北下の人今
一中やうり
一なるぶしめうち　史記曰
孝惠帝崩ぬ后哭泣不下　呂后本記
一あけまきなるものしの会仏　不動会仏ちるべー
一なるぶしちるものを　但槃経　阿含経　説因之法
行ぎやうなる是生滅法　生滅已寂滅為楽　雪山
童子求法　釈尊創うに全身をとあるうて法を
写て石ゐべ書付ける。鬼ハ帝尺童子ハ尺迦也

一なるぶしれハ　ハ出ちりて少て入ぬれがそうぶしく
を又ものしるるん　なるぶしれ一なるぶしみを　西行対
はるるれば　なるぶしみとうるるなる。
庭前霊物降居樹上　説前梅小児　添詩
数仏者ハ盡空の義　請毘耶　授秘手典小
兒醒　唐蘇義武之夢也　授
上流泉曲　赤太郎
一なるぶし　地とく　赤地。賜ハ系官の除目
抜第　赤地
ありもん　除目後五月経て
除目条事ハ　なるぶし
とうるや　中びるうれ

ようてもまさかにをこの法ちうごゑ

一なもとをさして蔵王ぶ山一なもとの花　あまの花ぶ

ようりてうびいろようひらくをめよりう

一ゆふなぶるるもと　三十ケ日ゆ織よ鶴や

一中小川にて　大底四時心無苦銭中腸断是秋天

白氏文集

一なもとくれるまうゑ

撞仏寺よ。安ゆとひくをさきて云ゑ也

一なもとひ　傳教　横川恵心院　源信僧都よりはじまり

一なふをれうゑ　法花経ニ仏之相貌起云

源氏ゆ巻第四

ら

一らうそびいとをもらるどれんやゆめるんやがりく

ところるゆ　一らうう　労ちりいるこ

ほゆ　一らうがうきらうぎきか

一ゆ　一らのうる　廊下や

一られへうし　羅表紙や　一らりくどう　良ゆ

きゆ。堀ゆるふやたるくんゆ。とらうきるる

うあり　一らうとめがれか　繞廊

紫檀架交石　紅葉擬　白氏文集

一らんさう　乱声　らうきとうきるかもあるも。

らんさうとて漢
俗名ハぶとと用也。家苑ともいふ也
一らてん　螺鈿　うつくしきとりてけうる也。俗ニアラガイ貝
といふ是也
一らうそく　蠟燭　あかき物也。蜜ろ櫻ろ。たうろうとも
一らうかい　菓子　あまどい
一らうげ　高麗　高麗物也
一らうし　紙　紙ぬる也
一らうかう　廊下　廊下也
一らうろう　宰鶏　うとうろうろうとうろうろうろうろう
む
一むかあくまで　むかのあくまでのあくまでのあくまで

一むすめ　むすめきこと也　親云

一むすめのよきをもとめる　クダケの用よあるべし

一むすべ　云　寄べ　数也　一むさい　カ　見ぬ　ものの義

一むすつけき　ものうさ心也　蠢　貪　白氏

一むすひつぶれて　きとのつぶ

一むすんよ　色盡

一むすくしうぬ　家の

一むすこ　げる也

むねよりけてゆりたる　家ある家ぬ人也　花　物の

棟梁　ものうぬ也

一むすこ　クんてん云

三悔の時　神或　女よりうひ　ものうひ　ものうひ　ものうひ　三悔時神

一むすこ　ものうひ　食　弁ル

一むすこ　ものうひ　寛平　法皇　河原院　ものうひ

梅の河　融　ホルニヨリルヤウ　乙　靈　物　て　ば　鳥　ものうひ

時　ば　陸　ハ　ト　ものうひ　我　ハ　天　ものうひ　ものうひ　ものうひ　ものうひ

ものうひ　ものうひ　ものうひ　ものうひ　ものうひ　ものうひ　室　の　部

一むすこ　ものうひ　ものうひ　ものうひ　ものうひ　ものうひ

也。多あひのをとれる也 一出てこちとゝひ 口をよ
こざるゝ〜ぷさてゝひ 詩也
一梅の花乃ゑだとみゝさ花の山のをとめをむすて〜
求るやど毒日めてハみゝさの山とゝゝふ。餘花なてゝ。
各を名をゝゝ也。 詩 用俗のあとゝなよゝ求よ
猿河舞とて。梅よゝ用俗ハ別のゝ也とゝゝ
梅の花乃多のごとみゝさの山とゝゝひ初ひゝ
ちれ多とゝゝひゝさと云心也。一巻の作ゝ。まち
出なへゝ。也ひゝちるれ多のゝてひゝちの多と
ゝゝ多ゝ。 一ひとゝんのさゝ〜の月をゝ

也。橘多ハ面ゝすく。裏ゝさ顔芳也。紅也ハ
初ゝの芳女れ多ゝすゝるゝの花 初てゝゝ
ゝゝゝをゝゝ也
一むま場の初ゝ花 初ゝハし屋とてゝだゝの
馬場よゝ。多月の騎射の時。中ゝ橘のゝ多ゝ
不也。多花多。大内の時。ゝの庫ゝて。一条ゝ
へゝをゝゝゝてゝだをし屋の花をゝるゝ也
一むゝ〜されのゝのゝ 芳のゝびゝ多ゝゝひゝる
一むゝんのゝ八ハゝ 詩 無彼の袍ハ多穀多ハ
絲。色ハゝ月袍のゝ。問云 多多の冠其ハ侯

俳一巻冠無文巻編駅着ハ無文の羅を用也

一むさうひとつ當服堂一むさとんの所ちをー

今源氏無家信仏也仍無名也

一むさやれおさしらとつまる河菅無相之ひの外

よしらくへくり給る時ぞり海の沿石のむまる

よとまり給ひ石むさやのあさひくしくしくを

しさ鈴出らんして出らるる　驛長莫驚馬

時変改一変一落是春秋とハ詩也。拾遺

をとつのどくそ。ぞよりむ治也。民今ハ節ハ寄馬

ど出らり給。驛也。菅原無の治也。出らるる

れらるにぞくへくるる也一むさうれくこさんぶに

流人乃ゆくるる。菅都を知てあをれとを也

一むさくく無法　一むさうれくを無合

史記曰。太名之下久不居。後漢書曰。伝尊集

危。賊多命殆。文選曰。木秀於林風必摧之行高

於衆人必非之　運命論一むさう無之

粉反　酢酬出る。中務卿兼明親王出在

大井川に親王を。昔の人の母ぞ乃紙父とうり

一梅のはり枝てよるとびらびらくあさるきまき

うりん。白さうとんのまり物。きうちにと

重さるもの。これをいとむ。さればこれをさけ。このうちてる
ハ光多ありてこれをうつさるもの。をこを向て吉さるれば。
けてうくゆべきもの　一むくされのゆへむづら
ハ源の氏もあるもの　一ものの一ものゆへのもの
一むくのうちをうるあるもの
一むくひ火ひうてへの腹ちて。我も腹をてるもの
日本記　日本武尊。東夷をうし時皆を火を付
うるに。あるくうるもを火を付るもの
一むくの物ぐり　俗者の物のうち。妊婦女をとど
父ハ逃ゆのうひ　俗母のうひ　ようりてぬろ

うるあるもの
一むくれるようぐうより
後撰こ大納言国経の家より作りける女より。
平定文いと思ひてうくひ行て行末を芝り
作りけるいとぬ女俄に賜太政大臣よむくれて作る
くれば暗ぬるもの　一むくさ作よ如とハ
ひんとハ紫のゆりをこうくけどとおべ。ぬるもの
てとハ松ちり咲こす花ちるれどもぬ松を作るようちり
一むくれ例をあくあめて花　あくあめての泊よ政
源氏ハ政大臣ちれ。それよあ
らくて院司ちど神をくれるんもの。又海よ上

天皇の前代例をあらためて院司ちかど宣う
きてうんとうちもこと云 一むかしさいのそこに 慶雲
三年の星とて天下に流れ瑞よきゆゑなり也
一むかしもやうるうへひよハ 是ハ源氏 天皇ハ女
よかうちうちをうちて忠仁公を舞よろこ
るをいう 一むこのたゝ 熟さの舞
とまれぶ上皇也ぞ上皇をいうをすれば又
陛下の舞のあいうひるりこいうんも
一むかしぐうりうも地うんをせうるを。花 七月
四日ちどへ内演 切紙 地 絶入をしるを

引用
うるハめでたきこと地也 一むかしの世うと 舞ヨリ
人の内湯よまいりて後ハ むかしハ湯よ宮ハ
ちん明石上のまいりて 一むかしゆゑあり ちんて
一もゝ ひ 馬ちひハ
一むかし 人ハ ありあつちをちびう 動天地感鬼神云
一楽 むかしの世にとゆやハ 一むしんの女房 会心
二条后をぬすみて出 伊勢物語よ。業平乃
一むかし地うるも さの弄ちどかるぬべし

一無言尊者　ゆゑ無　名言尊者。波羅奈国の人太子。名休曜容儀正生而十三年而云
奇ものの一むきひとくさをとりぐりとりとりぐりとりとりぐりとり

中の間なる敷居よりうちに。簾(ゼン)懸(シャウコウ)乃汗もみくちゃ
一むしゃものうちにて　位者のぐうに位ある者
う
一こうにん　廣上人也　雲客(ウンカク)と云も同じ。大納言中納言
うちうへの人也
無位(ムイ)無官(ムカン)廣也　一うちまきうかりく
こたあやしきわざ式しうて　打(ウチ)渡(ワタ)しうち格也。渡廣
のうりめんどうよ。板をおりてくうめをいう。花
村(ムラヤ)屋(ヤ)之の所　宮(ヨウ)獲(デン)廣の女房と。板屋の中ゑと所
物語ゑこのうに。その所ゑぐの人ぐうこれみうに。

不淨ゑとゆ所ちに伝ゑるをいうぐさて所遣り出る
へのうゑこのうゑそうへうくとうり
一うへつぐ　射(イ)屋(ヤ)ゑうで。廣よりゑ房(フサ)ゑ所ゑ也。
ゑ中ゑゑまうの方ゑを結切りハ清涼廣の二間(フタマ)ゑ
の所房ゑ之ハうゑ也。ひの所ゑ式ゑ二うゑ也。
乃房とハうちうゑ　一西わうり　西(ヤイリ)裏也。式西
清ゑの西ゑうゑ。大ゑ西裏のゑ也。わうりてゑ
廣の西乃ゑ也　一うちめうう　河　景護(ケイコ)。
ハうゑとうゑ也　一うゑかりうゑれいゑうん
也。鑒(ケイ)の字也　一うへ道のうゑ　紫中也。

表の一刻ゟ夜を除宿迄と為て有りて、夜は
でいとも申ると也。さて夜を申す丑の一刻ゟ宿迄
をさして申すと也。さてさてとの申し声丑
の刻より始めると也。だん近の時ハ丑寅まで数り也

一うけひくまでさ

一うそで始めべき 源をあつりかあ申しぐそ

ぐそ人の申もそんと也。又とだ申ていそれで

始めべきと也

一宮之内乃所乃所ゟ先

寛平遺誡曰。外蕃之人必可召見着在簾

中見ると代義也。何海ゟハ宮の御代文遺

とゟと、花空ス 必乃宮ハ内さぶ て はまづき附乃る也。

他ハ好まゟをてめすまづきはささてゟゟゟゟ

一うれゟゟゟうゟ人也 一ゟをゟて 諾 受弛れ

當の人

始とて申ぶ内裏より使侍ゟる内命婦とゟ申ぶ

上の命婦と云也。外命婦ハ上ぶれと

一うちゟのさゟゟひゟう内裏ゟのさゟゟゟ云也

一うちゟのやうさゟゟゟゟるゟん也

一うめさゟゟ れゟあゟゟゟ又依をと云。而

ゟうゟべ

一うれハゟの 男量の人と

又義也
海頻
[illegible]
[illegible]
一うるびく　[illegible]
一うるさく　うるつさも。又うるさくるもいらつてはなる
ゑべし
[illegible]
一うるさくるもと同し。[illegible]
一うるさくるふ　[illegible]
一うるもと　初[illegible]也

一うるさくるもんぞくやうるどもおも也
一うれさくるもうれしくさも也
一うれさくれ　身をくくてとパ
うれしくと同
せきれもあをくるもを身をうつとうり　脱也。[illegible]
蝉のうしたくうり
一うるさくるのうた　侍梅集
[illegible]。海よりうれまいるもうれど。蟬の殼はをく為
のうたくおのびくは他をめるもうたんも
一うだくくう　優婆塞ハ信ぐるぐ仏やうよ入人也。
[illegible]の等叩をおびし声をうてゑ十六億七
歳して弥勒の出世までのちぐりをうけてうんも
一うハ出しろ　ちさんを遊あてはくうて。[illegible]

也偽(つゞ)まうにもしらといふまた同しきこと

一うちうりまへるう　タゞかと源氏との家とを　多(タゞ)ほ(ほ)き

うりまへとをも　一たをハ　タゞかなめの兵(ひやう)

やぶ毋をもちうちうをる也　一うを(を)ミの世むすをる世と

一うちうんばの　優曇(ウドン)花(げ)なあひうこ花なあとへよりう

一うちすてうひのへり　尼(あま)ちれぶくを洗(あらは)くうとあ

さ面をり

一うへとうひかをる間也　一うへハ尼(アマ)

うへとうひかをる間也　一うちうき　禦(ウケキ)　禦(ウケキ)ハ

爰一の人或ハあうどちどのうを間也。きあのう兵義(ひやうぎ)

結(ケツ)。をうふ(ふ)ふ禦(コウケキ)ふ御(ゴ)とうを。おとハ源氏ハうへまをうへ

をあ〳〵うをも

のうをうをへり

一うをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを

一う

ちらしぬのつゝみとあるは笹のゝずいあまをどきた
やとゝちさらも　一うれしき和ゝそれ人の
声をいたしてちをうぶれゝ　ぽまゝ所はこた
しゝたゝぬをとゝくうゝ　うきとんのゝ人ゝうゝ海花
今案童女。時の時ゝ和ゝ　袴のゝ。表袴ゝ。
うゝきりんハ案叢也。よのつゝひよの袴をだきず。
打袴とハゝゝひきゝ袴。　一うんゝん院河　雲林院
ハ淳和の離宮也。任明天皇ゝ也ゝ今ゝ　ゝ法
一うゝしゝ海ゝてうゝしゝ　ぽまゝとのんゝ也。うゝしゝ
ぬハ。狂乱也　一九道のゝゝの人ゝ

海の彩人。中川の紀伊ちゝ　ゝ紀
鄙ゝとゝべゝ　ゝ除名ゝ　依て。潜匂れれをけづゝれ
ふゝ

一海のゝりて　ゝすゝ　ゝ
ゝうゝゝんやうゝは　宮ゝ　ゝ明月記ゝ　西脇萬
地電光弾　ゝ衣ゝ　一うゝれ中のゝうゝれ　是
ゝ彦火ゝ出見ゝ　ゝ源氏ゝ　ゝ桂の
ゝ水ゝをあゝをゝゝ　ゝおゝれ人ゝの女ゝ
ぞゝてゝうゝ和也　一うゝぶゝ寺桂の花位
古ゝ桂ハゝう　橋のゝ　ゝ塩海ゝうゝう
出ゝへゝ桂ゝうゝて。海ゝ寺桂ゝ

又海中れ龍王を移すとて名ゆう上るあれば。
龍王も神といとうんまお遂あるまじきも也。八百
會八幡のごとし
一海よりいろ花さたのがう
花も恨奇 方士ゆう楊貴妃をりとめし時の
ゆう。上者碧落下者黄泉とゝゝるごとし
一うゝゝゝもゝ也 松ゆう波のこゆう八葉れ松めよ
つもとゝれゆう
一うちつけのゝゝれ花ゝ
一あゝゝとゝ八ゝゝれゆう人のゝゝをいゝる也
一うゝ松や 海松とゝ八ゝみるのゝゝ也
一うゝのゝゝゝ

一ことばのみ也 略之 一うたがひごとさ さむらひ也
一うへのみ首 時 同後より人乃者ものすべの文節
こゝと河海よりあるもの也 一人乃者ものすべの文節
らするハ人酔うの也 一常のさゝづる時 舞ハ拍
似れだ院ハ院ハ院ハ院ハ院ハ院ハ院ハ院ハ
うゝ紅 一常のむゝ 利製我れ

一常玉くゝ うさ海を 及ぶ ぬんぞをあそだ けう也
一うさ海を うさ海れ海うさ海と云人也
一うのひらへめく うゝもるる也
一うちどれ 義宋うれわ也

一うゝまくゝ 名の奇をありめくゝ名のもの
一うすくゝ 柳 腰池 処 文集
一うさぶくさ 獣系 寮人也
一うゝ名れ名くゝれ 名氏よあゝず 一世源氏の
人の女也 美名也 うゝの地 名氏よ
一世の源氏くゝ 名氏ハ二
人もくゝ 一人ハ 段の 一人ハ
ゝれうと 居服の女乃 服の
あくゝ名 ゝみんをゝれ
きゝ名をくゝ ゝそ 名

て金をはくまたつねよりとんでよんでくてゞ出る
へ寄りうへれば源かねとゝ人ハ出亂しそゝよ持ち
てゆくとゝ
さるとい松もゞ
一うちも松　松雑　出ちい
のとき
一うさるうゝうゝ一うすいろ　絵めすを
一寄　打ちゝ　打重方也　分る人也　作　幸　ゝ
ゝへゝる
一海　へ　やうてゝと云人也
打つけ間人也　梅　えん
一ゝとのゝ　ゝゝ
素和の所時　ゝを陣
陣の所　濤　の色　地ゝ
凝代和作ゝ
わゝゝゝゝゝゝ

一寄ゝ声ゝや　寄の声ゝは　野蹟　鬼ゝる也　人生光
ゝ寄ゝ　蓋ゝ　蓋ゝ　ゝ也　ゝ主ゝゝ　ゝゝ
人ゝゝゝ
蓋梅の鬼ゝる也
一寄ゝのねゝゝ　節作ゝ
一うすゝゝゝゝゝ
花田ゝ寄ゝ　ゝ也
也花　白ゝ
一ゝゝ法ゝゝ　ゝ
檜作也　宇多法師　和琴ゝ
一ゝちゝ
うゝゝゝ　女ゝ
院ゝ所門ゝ　源氏ゝ所ゝ　ゝ

こたるなり

一四ちうぼうやしきひ　一うすすんうすだこなり

ちうちうぼやしきひのる　ゆる誕生の時ハ父ハ門

若下　例多之

一うへの家ハいろくけぢめなきて　河田位ハ家ハ位六

位緑袍也　一うしろのうぶりにて

若衆の法ハ出ぞのうちろのうち

しろさ面也　一うちまゑ　袖

まくぶ今もまぢちひこ　なり也

一浦鴻のみゲ　出家ハ物のこを移ハ

うるぬけうをうぶんをバ不可対

一ううこうひ　みぐしまこうぶ　ハ皆ゆてつれるう

ゆうるれまそさしまこうる也　ゆうどぶ　ハの岩ハ

あ人坂をのこ也こう　一うもて墨と　令和九云。

一注　君父ハ歩ハ服一年　一うう幻　ゆこうえ

んもぬのこれんぶぶ　ゆうるをこう

一うそう　ハ時の時　茶をミうゆづうまひ

八二家院ハ六条御也　一うしを　焼物のる也

一邦　すひ　をひすぶひ　ひ歩く也

一行門　うひをる　岩ニ浦ハ　まり花下　一面色ニ

掛岡堅水邊に
曲八系幽也

一うぐいすの音ハ付絶
一うちとけて　此歌意遠

つまどりの子鶯乃子也　一鴨のこまを絶へ
とゝ迄ハ世ゝうぐいすとゝ迄ハあるべし
一あるまや　うさぎの　陸奥守あて下し時のるをいへり
一うれ馬　梅の艶　玉馬をいへり
一斉　うさぎ世界　我分ハ山居してもうさぎを家
やうにみるべしとも　一うぐいす　持統天皇之年
正月天皇　紀万呂前　屈九郎　太宰貫　獻初枝

八十枝　卯槌のさ後卯　枝と同之年中此歌ハ
とゝ枝を用て　牧主年中行事ハ表
一内裏　内宴
侍の歌也
一うぐいす　一うぐいす　内舎人とあり
一うぐいす　うぐいすを見也
一うぐいすと　うぐいすひとゝいふのハ世ゝ
ちれどもとゝ　ぐいすハ
ハ　ぐいすとの　ひあると　変定しゝ
一うぐいす　人めして　お義本を付る人也
一のうぐいす　の
一のうぐいす　ちるくのとゝひも

一のさきさちて　八月法の大風の吉也
一のうれ所　法の所ニ月陰法の所能吉也
一のさのつま　好のもうれやつまハ地のもとを
一のうれさきひのべき　紙素をく用ることうと
一のうれ世の種びは始ての事と　極悪
絵舞　舞乃美　陸乃上
一のうるさくんるを　五十賀の時せ
大ことにさせまへの山也　一のうり二月ことを
馬をもらをて　射ることのうりとへう。正二月
のうるさえうちうをうちうを。二月まで延うちう。

月を隠る女院の法忌ハ延うせ
一のうりての世　ありてのせをいまし月のうも
一のうりあり　当れハ息ふもうるゝ煙をあり人地道
一のうりあり　のうりあり　ありとハ居の法信うるれ
てぬとハ別あ海世ハあるうるとおそれ
ばめをとれ山也　一のうとうれうあり
春月をうるゝ礼記うをとうう。正月賭弓
をくう絵の大内里ありて。選饗行へう。
大内ハ方を方ハ大臣をうう
一のうをけてとも　月奇赤動

一のうぢ　後員の意なるべし。うきのうぢハ
どく八安二ゑの所なるべし。賭ものす
うき舟　一のく　左のくにも　一のうぢ　後の宇治
ゆゑと　後鳥羽をいふ
ゆゑとなりひとつゑめ宇舟のうきてふ
ゑ面どもとも
一のとも　乃り也ちども　一のうぢ系也
一のこめ　也宗ちうんん　後也。せざるゑん

く

一ゑつかきおさめ後　内義寮　細殿在後源氏
義目ゑ御室と　ゑ二ゑ也。おさめ後八後ゑうう

さいうとのをおさめ後ゑうのうちと　退屈の心
也　顔河　顔喧　一ゑうあれでうとゑく也。
うゑあどうゑ乃ゑ也。河　昔八女ハ更衣ゑ。常に髪
をあうゑ年　ゑ義也。鉸　叙ちども
一ゑとのうへも　禁中ハ内ゑれてゑをはらん
ずゑに。母ゑ。あきらゑの宮ハ。ゑうゑ。ゑんと
のゑも　一ゑれちや　ゑ親国母
というゑうあれハ。ゑべし。ゑ国のちやとちゑ。六
条院の天ゑ天皇のゑ。ゑうとえゑうゑと。ゑ。
ゑぶれゑうとハ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。

やけのけうさめとは。極楽園の天子を懐抱しな
ふるまも。源氏まいつあるよるを。えまへりしうべ
ぬはやをとのけうさめは。そのおたうとうも
一ふうさん　慈悲也。元服もるんへとうも　ふうさ
と書さるてをとうも
或　廣ぬてきうべし　一ふうさん　ふうさハ下也
やうれてをもちうさとうも　一ふうまうげるる　ふうも
一ふうさうひ　移也　ふうも
ふんも
の部也

八もるも　極ん　実ちるも　ハ浦くまりやうるんまる
ふうさ　ふうさ　ふうさ　ふうさ　ふうさ　ふうさ　ふうさ　ふうさ
一ふうびはうう　あのりげるとの心也
一ふれちるのう　袴　腰也
一ふれう　ちるぶ　ふれぶ　ふれ　ふれ　ふれ　ふれ　ふれ　ふれ　ふれ　ふれ
ふれ　一ふうぶし　汚　細工
一ふうちうさび　口ちぶ　ふうさも
一ふうんうく　脊屬也　ぶんぶ　ぶんぶ　ぶんぶ　ぶんぶ　ぶんぶ　ぶんぶ
一ふうう　ちうの　ふうも　一ぐりんとん　敷文　花
家室　為京氏四十九首　敷文　後　河　朝　綱

[illegible]之見文[illegible]生者必滅釋[illegible]未[illegible]撫[illegible]之
[illegible]尺[illegible]衰来天人牧逢五衰日此[illegible]文之[illegible]也
[illegible]
一[illegible]爵を賜也五
位[illegible]爵位の[illegible]
[illegible]巡爵[illegible]位下[illegible]叙[illegible]也 私云
[illegible]
ども[illegible]功也[illegible]
の[illegible]声[illegible]
[illegible]

[illegible]
さとの[illegible]也
[illegible]
[illegible]
[illegible]女房[illegible]
[illegible]
[illegible]

所凌

ひハあつとあるぞうもて。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。

一ぞうもて　一ぞうもて　あり

一ぞうもて　一ぞうもて　鮮ハ色　黑汗衣

女房装束　服者の装束　一ぞうもて　一ぞうもて　鬘

草。色黄色也。服者ハ色也

一ぞうぎのぞうも　投のつぞうぞうも

一ぞうも　神　武ぞうぞうも

とも。源の偽をまぐぞうさんとも

一ぞうぞうも車　服者車也。板車ホとも

一ぞうぞうもて　黑方蜜とぞうの焼地のぞうも

一官爵をとられも　源ハ流罪ハいまぞうるくて。除名

とみぞうつぞうぞうもと。除名ぞうぞうも。

出当ぞうもこれぞうぞうぞうぞうぞうぞう官位と。恩のぞうぞう

て。無位の人ぞうぞうぞうぞうと云。源氏も除名せられ

ぞうぞうて。無位の人ぞうぞうぞうぞうぞうぞう配流の人

をバ必ず除名ぞうぞうも。除名ぞうぞうて流罪也

られぬぞうぞうぞう。それハ衆の物ぞうぞうぞうぞうぞう也。源氏

の除名ハ。近の例と用ぞうぞうも。落ぞうぞうぞうぞうぞう高ぞうぞう

行平。周ぞうぞうぞうぞうぞう

一車ごとくさ切て　牛をうばひて轅とあるもの也
一ふくさ　ふくさ切ぶりのことかくこれ　御前中
紙　香壺紙ぶくろ　ふくさのあれかたのことにて髪
をけづる時ふくさ　ぶくさ　ぶくさ
一ふくさ　ふくさ　ふくさ　ふくさ　ふくさ　ふくさ
の紙到るを知るべし　ふくさ　ふくさ　ふくさ　ふくさ
ふくさ　ふくさ

鮒のるまあるいそ時文酔醒薬官人あやを献
ぎ又内侍素ぬもたる臣下ま治時ふまを
たの酔ぬおりてたの脇へられて二の結を新く勝
よゆひて各舞するも狭衣続と云ちゆ巻
と迫ることひとしする也一盞ひとつ海 酔
知ることは迫ぬ我ぬまとへられひとつの海
ぬりぐちてこと補ぬ立ってんとへられ
一のちさ
ちるぎあるぶ 按ちるぐを黒赤ぬをけづ式
未と云也
四五一如聖行幸法時。殿人れ出源後春を法

使中。雅一按中ふへをもへりぬ例のも也
一ちちりきこりれすちる世人落濁我独清
衆人皆酔我独醒 一梅元 殿人一人 殿人一人
とあり是六条院の也ちんちう 薫長香
元えうう日
内侍ちるへのを優とけともも 弄
一ちあるへの内侍 国史ふ義和七年四月八日清律師伝
灯大法師位静安於清涼殿始行灌仏事推
古天皇十四年。始毎寺四月八日設斎会 日本記
一人ちどやうぬさ奉して素帥ちどのやうに内

ちくさ屋ぶのようなるをいう
一手者やしなぞつ云　摘と罪と成兼る河也罪
をうるなり也源氏とばゆまたとへゆるすぐして
をちなをとを埴梅ゆ云ん歟
一たるまれ　元今業山城ゆ愛岩郡之内小野で
ハ上ゆ云ゆ也。染梅つ下結ゆ也。寛仁二年
十月廿五日陣定ありて官符をなされおらぬ。
此後よりたるまのくはさうらうらんと云ばゆ也。
宮法郎まをゆ染梅ゆ云。それを云まるゆ
一たれちるのさはと　紅葉染袴を脱の時ゆ黄ゲ

ちよ海て。一暮の乃ち監髪の脱をさるゆ
一たちまち　九月　文中をちちうとも
一毎説　一たちたちたち　脱者え
御庐とて。校をと切さびてちりますゆち。御庐
の乃ハ日の光のもあくずとゆ。礼記問喪
篇寝苫枕塊長親之女王也
一たれまをちてハよりたる女のんとけゆるれいをを
をけるまを立四川よりこそんゆ
一雲書を　雲侯王宅仙人ちどのんゆ。雲霞の
中よまちるゆ仙人やりとゆ

一ちやうつくづて　勅宣こと也。独ごちて。同じ也
一ふくとも　ひとちのあ乃　嶽のこゝろされうるとを以
一ふそんあるよ　巻数也　ふそんずとあるかとを
一てくこゝのむろひよ　経信さる人のこと也。面目恵
端厳為人所喜見法花経功徳也
一ふそうち　彩達　古今集の作者とつふそとを
ひとを　一ちゝ木あるどの　死灰　槁
木枯　ちくる色。枯ちる木枯とく　無心ゝ云心
一ふゝあるど　宮仕ハ桑　発心の妨と云也
一ちのうちに　横川ハ雲のうゝ山ちれたびあるう

いさもあるさまく。山風吹とゝとみこひのへとも也

源氏九下　巻第五

や

一やんことあるさ　無位なるこの侍也上臈者人とア
也。ぞ。ゑハ位なるさ人のこゝろハさしとられぬおもれぬやや
ひとちさとはひとり　一揚　長恨哥とり
一やためくひて　やくハ潮也　狂　寝　隠
一やうとさう　和国のおも。日本のお人のこと也。ぞ
ぞやまとお人ようを也。ぞ　敵をうぐしこのんも。ぞ
仲哀天皇をおしたてまつりしやまとお人

にゝこらけりとゝ。なる驚入の道一山ぐれの山うへ嶽とゝ
ゝ夕ぐれの早下ゝ。たゝよハるようけさるゝ
一やとゝ　やとゝ人声ゝ　一やゝ　ゝとゝやとゝ人声ゝ
一やゝちゝん　やむ。止ゝ　ゝし又病ゝ　ゝるゝべゝ
一やゝうゝゝゝ　さゝゝゝうゝと同ゝ
一やゝめのゝけちゝん人　揚名ゝ　ゝケのゝちゝのゝ
ゝ。新後古今　雜中。源氏拾遺揚名ゝのゝ
と忠ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
雅朝卿

つゝゝゝ　ゝゝゝ

一やうひ　三月　ゐまのはとやハくのてうもや　三月
くもむつさ　二月　ハさ　ハ　ハ　ハ

飯食為脯。欲漢之礼儀志云。三月上巳日。宮人置禊飯於東流水上。上巳祓禊の事。詩経大成にあり。三月桃花水下時。祓蘭藻招魂覡。祓除不祥

一山ぶきのひがしたに　山伏ぶしとぶでせばのびて山

林よりすんでいるおもかげをみとりてこそ

一やまがつ　藪入

潘安仁笙賦曰。棗下纂纂宋寶離騒。車騎入類聚李少君以却老方見上。少君曰臣嘗游海上見安期生食臣棗大如瓜　今棗あるき

このみハ棗の転平

一山ぶちハまろうろうれ　山に

ハ山人のすがめをみせ　伊勢物語のあるんとて十月

よ山に祭ありそれを　杜入りもぐめ式ゆり

一やまもとの系よハ杜ノ系を　一方系ハ一三天

皇詔内大臣藤系朝臣競憐春山一方花之艶

秋山千業之紅葉額田王以歌判之事

杜山の木系をきて紅系をいろいろてそのよ照之

一やりすぐ　そとづも　一やくとハ久と所俊るか

き沙也

一やまもとむ　我恋の

めあしにうんも　一やりすぐこの系とりハまつ

もこざれ　松浦　松浦河歌　松浦ハ田祝河歌　松浦ハ幡

同祈。第濤八幡宮神功皇后ゝ
一やちさのもとゝ柳ハ面白く。裏あるゝ多
ハ和花と云んも　一やさゝうふいあゝねと
花ゝこのはゝゝもゝちさ花やさゝさと云也
一やゝまゝさ　ゝやまゝさんも
一ゝを多　和琴の名勿論也。されば実ゝてハ。
一やゝもとゝゝ
只和国のゝと少ゝ云ゝるゝやゝ又ゝゝてゝゝゝ礼和琴
ハ絃六ゝちあり　一やゝがゝちどゝとゝて
大和絃云　若ゝと負ゝも也
一やさゝゝゝゝ　ゝゝびゝゝさゝやゝゝさゝとも

云。ゝゝようゝべゝ　一やちさの下ゝさゝ松　時
向。ゝゝすゝ云ゝゝとゝゝ。下絃のゝゝゝハ。時節ゝ。
ゝゝゝゝとゝゝや一茶下絃の多時節ゝゝゝゝゝ。
梅梅ハ十一月ゝゝゝ用ゝゝゝ。云冬ハ柳と弱
ゝゝ。多ハ和花と云。同物也
一柳乃葉ゝとゝゝびあそのべき　史記曰。禁廷有
養由基者。善射者也。去柳葉百歩而射之。
百発百中之左右観者数千人皆曰善射
一ゝゝゝゝゝ

襖。陰後模。櫛文まき。摺袍。柳。色下襲。白綾袴。合
大口。赤紙半臂。緒方節。茅。各同付えて 舞
紅のけぐさ。東樓の花やかなるや
一柳をまづうてけうくん 沔 楊柳を白きなる
あとへ略次第花をあをきいろよりくへうり
一陽成院の庭 陽成院の庭の式アるこえ鼓
保親主とヤをうこれを桃園の式アるよあずま
へうり弦て弦欲 一山里の表をそあり 山河
来れるなるのふゆうり一山ぐ乃まづをを 人倫
ゆくりのくりをいへりぞやうのへかどぐめ

とも也。常ゆくりのくりとゆくりのくりとゆくりのくりと

日のひろハへでそなてる心也

一やどり木　背やどりさるとかもとびハ花

をあつ〳〵ぐさうんとの心也。秋はのうたるを。

寄生（ヤドリキニ）たとへさるとかるを一やどりと　亂（メツニ）巽也

一やどるとは　ゑの表れ手をひいたり

一やどりくハも　戒（カイ）を破（ヤブ）るもとかるを待

たるを

一やつとあのはる　浮舟（フナ）

いれの法字法へ浮るを

そはる年は二月は小四たら

つりの〳〵ハ蛇（ホタル）いとなまでさと云（セツ）ゑ。めの浮舟ハ

其の後〳〵法りあんものよ。やう法へさいく浮りの事

ゑ不審ゑ事也

ま

一まりか　一まりゆきニ　義（セニ）ゑ也ずつ河也。正作（ショウサク）ゑ

一まりゆの元　儲君（ウケイノキミ）

ゆん也

義（ヨシ）ゑ也

一まつハさゑ法　纏（ミツル）

一まつのかゝ也法ゑ　諫進（サシ）日本記（ニホンキ）

一まつさゑ法　さゝ法ゑ　諫（サシ）ノ船　諫（サシ）ノ船　とゑ也

一まつでちん　まつ法ゑ　ノ船　ゑ也

ゆるん也

一まつ法ゑ

一又いとをゑてハ　法門（ホウイ）

一まどりゑ　まどゑ也

更衣（カウイ）の局（ツボネ）へ。びくまゑ

せんりうの
ゆるさぬ
ふゆのさくらかな
はなとまと
はるの也
一まげうす　曲
一まうとにまうと
ゆべし
ぞ也　ぬかるにむかしの
みちかな也
一まうぐち　突
一まぐ中将のぞに　源氏
しぬけも中おの也　しぬけ
ぬかるはるのすを
ぬかんあてぐいより
一まれはあるぐちひきた
ぐべ　為重又兵衛
一まか　まをとうむ。真帆
ほを真帆とつみ
ほうるぐいでうの也

一ようかの　真名也
一まのうと　真人
一ようのうと　客人也
一まうぐ　一まうの　我らを丸と云
一まうぐ　拙上也
一まぐうさて　燈
一まうぐうさて　ひくめくぐの
一まうぐうさて　伯陽
のまうぐ也
九月　白氏文集
一まうぐ　厭術
一まうぐ　八月
一まうぐ　ひぐち
一まうぐ　ぬかのくるまの加也
一まうぐ　ぬかのくるまの加也
一まうぐ　ぬかのくるまの加也

はなのめぐりのまさちうえをたずねてあるくなり
一まひ人　まひつがくうまを一まひでくんでうつ　忠勝
あづまうたくんどうつも
一松の名はとあくでう
貞松　歳寒とのうつ　ものもとの桐さのはの乃
性のあくうちうちのくも　一まうん　ぶけいい
ぶ　ぶ　ぶ　

一まくらもとにくらをきて　定都の沢　まくらをきて
勝　めぐりをすゑ　摩高原　那　彼日本記
一まくらもとにくらをひくこと　はるかの髪が須ゑもすそ
ほれるをもも　一まくら　女　日本記
一まくやまくらもとのもの　大支　鹿が須也
一まくらもとにくらをきて　はくちをもも
みを西の方に　新宮　一日　舞人　起屋　唱　万葉集　我
皇　延作　億仙齢　万葉集　元正　慶庫　舞を　鷹
催馬楽　渡海三船　撰之　今の集　万葉集　八の
多氏　和歌之
詩也　それを漢　音　ひて　自　ひらかな

ものとなるもの　ものもの　ものもの　ものもの　ものもの
ものもの　ものもの　ものもの　ものもの　ものもの
ものもの　ものもの　ものもの　ものもの　ものもの
もの

一まつりのかつけのあと 祐と
納受 たゝりのはなのこゝろ也
一まさかくと 仏菩提 有二千歳早辱
手向也
一ものもつかく 源氏ノ
氏長者のうんさうまへ 弘法の守護 法也
えうもの法りでぶ 長上ノ影法也
一まうびるさまに 仁和ノ
毗盧遮那とは大日也 摩訶
一まかうへさまく 行人の眼ざしもとうさま
面をのうの時まかうへさまく 八月也つへさまく

一さうとやうのかたち 一松ノ海を山 松のかたち
ふかふかの也 一松浦のおまれ 松のうち
ハぶまてゆかふ面とうとうをつへうぶれべくく
今夜ゆきうべきふかとハぶでうてきうべきとも也
一幻まとゝうの声 時く猿ノ声 肖壁影蕭く暗雨
ハつ一上ノ三 白氏文集
一松の影をすさ 仙人手
羌食松葉不飢 寿而七十余年すくハぶ入
一松ノ海
金ゆぶんの花也
一まくすさまの花
一まうでとゝさうれとも
まうぶそうとゝ也

一まさごづる　あの校よみうちぐれと遊花めて。
仰ぐちを校よつぬ。校極和名未詳利
一まさごうめ　ちさいかれもや　校極こうんくり行と
えくるん。校よさいり一まつそくくれ　極
紀家をとして養ものへり。芸八中　ぶのはかまるんば
一ふ　ぶのおぢとも　一まつ　園項　注師也
一まつへ　ぶへ人也　一まつくしさ　まくく蓋也
一まくく　森　狂言　万　一まらさんさちたまも也
一まさごり　うさぎ　うれまもてあそみんも
け

一けうの文　松　ぶ保の三田侯の書く家文
ちるべし文　文と三昭　よわちてけたとりて。撫
壹の文　文八中の品也　一けももべさめりも
文　文の墨ものるるをとり
一けちて　ぬひるれや。ぬるどあてをやそらも
一けうありけう　真あるべし
一けしさぢ　ぢれとをも云。上の河よつきてん
さるもも
一けぢめ　河　結目　掲目　一けもひ　丸日本記　形勢
しくへあるも　河　不下習不性　一けもうへあるぬ　げも

一けちらき　毛付
一けうらく　陽身也
一けさう　逸毒也
ちらも
一けあちうう　毛あり
一けとくれある　毛とくらも
一けちさあるのうく　毒声　さちあるもも
ちちうくひうちあも　一けうくひもひとりまち
ゆうはのはとけうくひのひとがひとりまあき
あうも
一けんうくのあくちひも

一けうらく　下腐也
一けちさす　基のうも
一けいめい　ゆどうきとうれ
一けうこ　危離　毛付
験方也　ゆどうちのうくんのあうと云用
一けのうちうれう　指どうのもえひけうくうたう
ちのうけうちどに　かうちう
ちあうも
どうちをあのと云也
一けうやう　清方
一源氏のあはやけうと
姓とうも也　北光源氏
一けんちど　勝
一けうちうすべき　毛と
さうすべきちどうのうけうと。て雀具えも
一けかい云月ゆけのうと　長沖物品也長沖
六日六日　続きうも　又一流　伝ちもうけ　忘

つぐさくろとんぶべ。天下の其位地高うあるさくろ日也
一けちえんちろはげ 揚子雲 あくつろろ史記と也
一けうさくし 源氏よつい高くもくんとのんも也
一けくちろ歌のすくろうて 輪林のへ出歌もろ也
韵の字をて切韵をそ。仮字をしるして韵をすると
云時とをんで又歌の中よみ韵と云て。歌の変字
の中。平声字を取て韵とすることあり。又
仮韵をそ。化者の字をうもにみはとろう
一源氏のうちつくさ居よ 新撰の中ぞの後。安文
乃文の中。源氏の性と行くぶんも。帝王親王

の位をば皆源氏よするもんな。数氏の中絶するも也
一けさくしそふ 化粧方とくつろも也
一けくしう 歌けやくろ。ろ。ぶくぶくもる
一けちう 歌絶えんぶ 新撰家のき
ゆんも。ぶんちうんも
ちちろのんも
一けちんまうを 花文綾也 謝惠連
詩云。客海遠方来遣我鶴文綾云。同也。或
説顕文綾やぶんもちゃ。そいうの
主家を云。當時八穀の字文ろをりちろも。八

略問るあひだの花とハ略ハ多くの花
多花深き海ゝなり
一けやくうゝ清くうゝ
か　右極の所ハ男の妻となるひて歌ハ語を謝
てあるを女のなやまつらん人のさけをとりそ
つゝんとうゝ絶弁ハ待うゝひのもそれ
をけやくうゝこれはいくもゝそれ
年へよけるはあのとぞの物音しるもゝ花
はは絶右の所を引入て時よ語てうけるゝ多し。
もも兵引入るゝ物べし。けやけ完まゝ
さるどゝんも
一源氏のうち清くさ者よ

栄花物語源氏の所清くさ者よ
の物乃はゝづめとみるゝ
一けんき　塩竈うゝ
菖蒲勝ゝ
一けよあうゝ　ゝ音の者ハ須ゝ
をもぶにおりまゝ
うゝ絶て我のゝやうさ世を云ゝとゝ
一源中納云　菖中納云のゝ
又推本ゝ中納云ゝ
如べし。紅梅所ハ推なゝ

ゝ月
ゝ土

はしりてさのを浪をべうず。蓋の尊おそ
しの表れ。ことをさうるはうあると云ふ。春秋と
九州のみ字に部之 一けんぞう 碁の助云
也 異説のんぢ。又説 碁の助云
あるべし。りんそうとうとうとうとうとうとうとうとあり。ぢうるあや
一けうし 教養也 一けうこひ 職也
一けーやくこと 雑摩 茅やくうあり。
のうと同じ
一けうのうと 常之
一けうさう 化生 一けうやく 校易也とく
うとうとうとうとうとうとうとう

病也

一ゆくうもるいとのみたるもの　不意也

一ふくろう　富用也　一ふくろうあるのこうちき

諸花都花とあてゝもるもの　二藍と云二字へと

ふしぎあるとゝぶくろ　人とゝ同也

一ひんもる　ひんもると同し。不夜也

一ゆくろう　豫　説文云　食父母不都也

一ふくいとゝろうして　病花　ゆくろうしてぶくろ　風

かゝろうさ也　眩　富用　一ふくもで　卧蓐也

一ふりもへゝ　ゝとくゝのん也　二間のさい　ゆくさまハ指仏

壇也　中ゝ　諸　置　善哭　善薩　衆　白象

一ゆびんはさのはゝ　花　巻哭　善薩　衆　白象

鳧如紅蓮　華色　観普賢経

一ふゝきのうそぶく　てんとゝ　獸の皮　ゆそつゝ

ふゝきあ也　若　ふまれる　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゆゝきてんと云　獸　如開　ゝ　捨遠

ゆゝきのうそぶく　ゝ　花　ゆ　将入　横門　ゝ

始けゝ　中　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　在別紙

一ゆでの　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

花のそん

一ふゝきもどゝ　ゝ　花　詩　被譴　ゝ

中ほどに文芸をうさてぱ歌あるべく。文人
ども八階下ほすきて。儀頂すべきもの
一花のえんしあの花ほかやけるなるべくてお
人民高きて花家あるに又天暦二年四月十
二日花香会花宮よ。和奇管絃あるべ
一ふさりうず　石清水　あるべくさるべき
一ふさ枕ふさ　長恨歌。唐詩数
多翠　金衣寒　とあるべ　白氏文集第十二
唐代引　駅　旧枕　故　金衣　離与共　なり
源氏心也　永正七七六記之

一ふさやうやうつつ　石宮也
一文王のよ武王のほとうれいとうさく史記。魯世家周公
自稱何ほ成王の位れいとうさんとも
けるべ　とへば周家の王位れつ面のあくるる
べ武王れ後ハ成王の位ほ付あるべ。そふれ地位を
ほずるべ。ものく。衆薦院の脱屣あるべ今ほの
位ほ付あべきるもの。衆薦院の次ほ弟の
冷泉院の位ほ付あべ。ほ遠するやうるべ
て成王のほとりの給りんもそんぱ。今ほの院ほ
とりかさとるべ。我文王ほ武王ほ

郡成玉之撰文也。於天下、殺五職矣、大本山義
一文集　白氏天の詩賦をあつめくるもの　七千二
奏あるとも慶集とも云
一ふんのつくり　花勅つくる司一くく　林唯仲名御
手祭良之万為花書司。則取材文和琴置之
此第二ちと。今案。物合の後ハ必ず遊あり書司
八女官のなり也。和琴をつくさどるなり。和琴を
とやうく文のしくさとも也。ちちめハ字多のしく
ようびくるわ琴也
をもさんつくるとのしくみ文の部にわ琴をとりあつ

へたこと。
一ふんくつ善賢儛に一仏天のつげ　ゑとくく
奏しくるも　一ふくつけぐれと　たきやう
わとも也　呼力をへくるもの也
一ふんのまるやとくとへ　白氏期。思舊賦庾
曰。隣人有吹笛者。数色寥亮追想曩昔稽
譴之好　文選　一ふかくと　大鳴　筑紫
国ぐのこと化をきくるわ也
一ふくこるへくる　ゆくこのすぐさぐくるものとやめ
ふくうくさとも也　一あぢのりうあぐ　女の

[illegible]

一ふくりんなき むさぼる也

玉かつらの縁也。源のそうそうて

也。琴の上手なる也。ゆうれいとの事

一ふんせきにて新礼といふ 四方の我ハあやう

しきなるに。夕雲の家礼のうしまし〜まうさんと

根源何也。新礼とは父をうやまうこと也。他

人なれどあふぎて礼をつくすをば。今の世にも

新礼と也。ふかぐ〜けとり〜(儒)なのとり〜()と云也

一ふくちゃ。ゆかやけうさ 親王大臣以下布施を

白裏ゆうさうず 法也。灌仏の布施よ。袋を用

うる紙中法うると紙つよくうる也

一ふくさ 美うると云うさ あさ花多ふわく。袋美六

位袍ほうこう

一ふくちのうえよ 奥入

脇袋とも法也一ふくちのうえよ 奥入

奇と云用ると奇り 神九位なり。只郷分の格あり

とんぬてうべしと云一ふくちのうさぎり 譜也。

河海は琴の譜のうる格式略之

一ふんじあて 施礼を載し 勝手。行幸者結

一ふくりぐうう 女三尼よ 女

後を聞くてきさまの也一ふりのきんは源氏
のさぶらひをぬきすうの矢止とも也
一ふりのきん　ほうの国にあるかの也
一ふりさくのあるれ　花咲れねはうる所よりの
よ月をかくさめとも也一ふりえん竹よりきうろ　根本
夏中のうぐいす風を見て鳥をあるれば也。
とをるべかりの也　音律ハ笛音の調子よりて
吹つるあるも也　一二三月　ちりとりとも
べ　唐渡也　一ふりもんれう　浮線渡
一ふすく　粉熟ふ穀を

ふすくのかすをとりて粉にして餅よりて
葛とりのそうひまりてぽそきの乃法をもつて長
中へうくとりへてぬぐとをてつきよりて也穀
六乃　俗名のとうるる也ろうかの地後よる之
一ふくさまりのふ　ちえ釈迦のて聖教よ法をなる
ひとあつり
白と黒との中をつぐどもつ時ふ物べ。身のつぐ
うえへを不対と云也　一ふりう　武勇不道とも
かをとる
一ふりの川の　浮舟のんも去
らねだ鉄むり此燈とふ也

一ふとまろづくりたるうくひと同元
一ふさのうくひ丈夫也　一ふうう　不蓬
一ことあるの時を　つくしくたきるるあるの時なり也
一ふるさうあるさ　はたかたを也
一腹深度　はたの西にあうあれたる蓬
ちうきを也
一ふうくもを也　ん操
きものつづくとふんを也　一あたの約云　巻てあたの
故深くとあるをぬるをあるひんのうを也

一こかのうとし　高麗人のうを
一ふうくもん元　職員　一令の玄蕃とは部の官
まらうこのつくさとうあり。玄八條蕃八客也條尾
とをとのくむ一百濟國うを来朝也
蕃客とあるをくくはり寮よりうさうを也又蹄脚
ハ。脚の義を昌脚。蹄のちくとをとうさを也。
故に蹄脚ハ声を惰るを云ん也。異國人来朝の
時ハ。通ふをとうの法うさうを。あ玉のんさをとをふ
ふのへを也。七条茶薹ふうをを也。或八今れ四づうを
云ふの色うを也　一ふうをく　玄蕃　ほめく

多何也

一うくさうのん　穀倉院。

おさめ蔵のるもの也

一ふるて　をしたろう也

一うちまうぐちちぐ　つゆまつりぐどう也　ひとうと

ぐちと　擬宝珠也

一ことうり　云撰也

一こと　中ま　紙中也　紙中ちとりまん也

花ことあるる　紙あるる中ま　一こめまて　巨字也　ようま

の行也

一ふづさるく　ふつうぬ也

一ことさうひ　ことさうくのわざとけうるとしるる也

一ぐちち　後達　仰　白氏女の恵久也

一こと人のひとんやうる　いうこれまちるぬんのへ

ちんやうにと　中ぬの源氏乃巻をとりひのうとと也

一ふるうひ　ふううひも　ぬるて　おこ　ぬ也

一ふや　ふれやとふふも　一こことちるく　ぬめくる

用也

一こちのねも　紙つれる紙

人をぬやへりてめ　めのくるぬりるれすると。

ふれうて　在の紙系也　ふうもとうて　ふるてこちや

ぬれとうふるれぬ　れうこうすの義也

一ううぬれぬ　猫のうるも　ぬうとと　寄のごと

くううぬれる

一ぐねちのざやくこ

くねちくぬ　交の暑也　生　ぬ也　菓　ひうこと　ぬ也。

暑気をさけ物也　一九日のえん　軒陽宴
よハ天皇南殿に出御ありて四弁　御弁　善あ
ると文人博士をめして題をなしめて各韻
の字をさらして詩を作て強ものあり
一なほ酒つのうち　中絶云て左右をうけらん也
一とくくあらくるれハ　とくくおろかもの也
うるもの
一ごうくせのよ　博物志云　堯造　圍棋
一ここさあやのひとへ　女房の装束ぞ日ありまた
まくし　歳内ひとりきりてひとへさらとうりて
さあやかうちきあるへし　元ときひしくさ
ふ

ふとゝり
しこれおとも也
ふんも也だきしめくるる所也
一うこのまれ　九種　よりおとり上生のるる也
一ムあるてよ　花　タグヤハ女のワガ身よりとてあ
ると　高貴　えハ源氏よりそへさるべし
一これをハ　ゲあぐり　タグヤの家よ　惟光ゲ
ろ　紙付ふろんをおぐりこうへる也
一こゝろ　小舎人童　中将少将ともよ
ある也
一ふのとうれも　うこの切ふ
一こぐくろ　たき和よこぐ
ふる所也

一ごと　ぬぢ也　ぬちぐぢ　ぬちぐぢとも
一んぐちぐち　だちんぐん　ぐみぐちぐ四
るもぐぐぐんのぐこをぐんぐぐぐのんも
一こちぐ　河　ぬ四きんも　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ
一ぐぐんぐぐぐぐくんも　ぬぬ　ぬぬ
一ぐぐぐぐ会伝　葬　送れ　義　言　会伝得十五
功徳　ぐを　河あり　一この名れぬきぐを　餘也
ぐぐぐぐ

ゑ金線をもらくらるゝ

一こんりゅうつぐ　絵画彫

竜　鼓馬と貴布祢の中に絵ゑがゝとゝ。

某所に仏不動尊霊験の地也。某所仏の竜を

絵ゑの通地よりなる也一ことばはるゝ人みて

地ゝくゝ様ゝ也　一ゝくわらるべゝ

父子兄弟のゝ上いゝをあてゝ也

一連ゝ乱ゝ　菱ゝ上ゝ六系出息の神也

一ゝゝ人のゝちんやゝに　命婦八源氏のゝ地ゝ

べゝやゝゝゝゝゝ

一ゝゝすぐゝゝゝゝゝ

とて人名日も男踏歌(ふみうか)れ後二三日よりの儀あり
るをうつりぬれを花宮あるを見ものなり也
一ここうこだくすりうれを こうれしこれのをふをう
ここぬをいぐしうるるや
一ひはまへみてへうびあるくさ也なるを二条院
やうぐを思(おもふ)ことまるずくへてぬぬよりそうくさ也
なりあるとぬのりなへうこ伊勢物語さくこれの
下にうるくこうへうこあるよ似うり
一ことうけて うこうけてそ也
一はだ後の日 はうくへの日也今あ来交所の女院(ぎをん)

ホクチャウトクとして後。東門よりのぞこうてばそこ社のあり
てうくよ物女院へ入るの物女院とハ大内の中。大
服識(ニヨウ)。或た近衛(フ)ちどくを踏(テ)じて。それ四年三年
繁(ケツサイ)女のうるる。其年九月日よ法社へ参詣りんと
て。条(ジリ)の前よ右日を擇(エラ)て。はこ後(ケイ)のうるる則紫
野(ノ)九月ぬ入るふ。これを二度の後(ノチ)とつふ。さそは
九酌の日変(ヘン)所社へ参詣りるる陸(ミチ)なり也。
毎年(ヒトトセ)の九月後(ノチ)へ必年日これを繼(ツグ)ぬる也 下略之
一ここあをとうびのうこ 花田(ハナダ)よあ球のまうこ
うる也 一ことさうこびつり出うこん

やうもり花　六月盆晩之候五夜明之天別法
俗云之情虫声切こゑ恨遺逢斯時ことさらに
ほたりいそがんやうもの也　一ふぐんのこずゑう　護
摩五壇御修法降行世　金剛夜叉　庫蔵利　中央不動　大威徳
一ふくさんの日　法華経也
一こまつなと　狗取ゐ　細ほそ　細ほそ　今ごろ大
ぐひも。紙屋よぬさ　ごとくて出也
一こうのづて　花　蠶居をるゝのほくへ出ありる球。
とのまといも　一ことちるゝ　云為記
ことちるひも回也　一こうすま　こうねるゝ也

一ゝゝゝゝ世花ゝゝよハ仙境をゝゝ。ゝ花のゝゝゝ
ゝゝ花ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
れゝゝ花ゝ俗名ゝ
一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ琴にひさゝゝ
れゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とのゝゝゝゝ
女花　王昭君ハ胡國の王ゝ嫁ゝゝゝゝハ仏ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
我ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ちれと。ぞ。ぞ。ぞ

也。正子内親王絵合のこと。後拾遺正子内親王絵合
合一作あるべし。この物語のあらまほしきあり略之
一この物語とすべきの人のひつくべき世のことなり。
近き天暦の聖代とこそいふべけれ。冷泉院とは天
暦の皇子なり。
らを絵所堂　花名所。
樓閣を觀ハ融公山荘。清涼寺の
東の阿弥陀堂也。法橋上人奢摩他寺。釈迦堂
遠き所ところ
小名の付所多し。
一ここもとまるべきなり
数九を羽のしたをかさねて。山荘多

ハ付てさうづくあて付也。舞ようきうこうず。
の持あてと付也。
ともをでゝ云。
行ひ物のうち　花今来物節。こゝハ近江の舎
人の中より。東海道より遠国。
より来国長府掌。
条。
もとる。
とまるも。階堂ハ府生。
後とみる近江の官人也。階後ハ和琴笛

ハ付てさうづくあて付也。舞ようきうこうず。
の持あてと付也。
ともをでゝ云。
行ひ物のうち　花今来物節。こゝハ近江の舎
人の中より。東海道より遠国。
より来国長府掌。
条。
もとる。
とまるも。階堂ハ府生。
後とみる近江の官人也。階後ハ和琴笛

を云也略之

つとくしまの人也

一これやつとうまへやぶ

未カ大鏡云。三条院の法師はゝ。信濃ノ国なるんとなんば〜

一故大納云つまひとぎさこ

けり。四ツ目ハ大納云の共后よ立例ちうたれ。

此父大納云を賜左設大臣なりてそ信濃ノ国

一る紙ちうといひそ史記

さ也ちしうと

明君知臣明父知子

一又若くてまうり給 源の

まうしうちうくあれよ。惟光がむすめあまうも。時

向云源氏君ハ云〜の方むすめや。一説可待むすめあるど

はうう人よりけ作ちうこ云〜分又愛外多人國見ちう

人也ぞと四裏のみやとちうづくも

一こまうけのぞ　こ海うちうまうりらひやの鄙ちうも

一こうきあこめ志をんのとり地河志をんい面まうう。

うしまうしおうちうまぶハうのつ九杖ハ美ぶのあうき

方まうりつうちうもうぶこハよ二ニ着おこあハきめよ

必うきちうも

一ちうしまうまうりうの　ケ

まふ色をまの絵ぞ紀美のあり〜ちうきをとれ

らんぞうとも

一こうこだうそうこうこうう　地

ひのちうまうもを云也

一三のはハきのちうてあり

三ハはまり春よの浴也ぞ　春ぞ浴ハ世信紙云を也

一胡地のせいをべむるものくもそくい 一本 胡の
地 深原つ井 不得見 白氏文集 胡地 書不歴
年 揃 後漢攻胡之時漢人止胡国不得帰漢
軍敗之故也 後又後漢攻胡之時止胡之人欲
漢也 此時弄胡妻子而漢不入彼人剥鳳之弓
敵 必住人也 仍両国交之意 物語喩ニ
一ごとそ 又 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
ぬ ぬ

ほとの聖人なれとも時うてさるる花さと
くらもせず文ゆるるよをよそる
一この花ちる　花へこんぺるちとうもべしろれをさん
うちとうもも
一こまのく拍子うり　松原よ
わうと拍子の名よ出きり　一このうのめ　ぬきあつめも
一ことついさうひう　空ともつうさちと云ふ也　とつうさ水
べしひひとうまくとうと本とうこ花名　云流おを
多へうこさひう俗ともんぬをこいてうさるあん
一こはうまうば　引歌　寄　動
一のうさ　ちきひきわうう　けうさうをうはううきも

一はあれはげをんざいのうん　聖塔ちりしゆ拍子
ぐさねうとも　一うゆひ　りをうきをて
勝をうゆうる也　一こうはまけ　古老はけ
也典侍也二人のうきうあ人を内侍のうを見人へうを
とも
そちろう　紅梅の唐織拍の用そちるぐも女のさう
うくへりうきあちぐも一ことうのさううく　こ
とのの数来とへ絃　柱つけちぐも
一んありて風のらぐ　風ぐふんあるに笛をて吹ち
らすべきうとも　うを梅の曲　うんも

一こまのうんめいくらべこまやうふねぐうしゃく紙をぐうしゃく
あそびやうちう也　一極楽寺　深草在之
昭宣公法建立也　一ゑんやまこさぶ　結ぶ
うる也　一近衛殿の使　賀茂
祭春日祭の使迎使を用らるゝ。東遊を
をしらるゝ也　一この枕草子　時代
と云よ。夜ハ云よ屋しき　枕草子
元ハ夜のうしろ　一ふ松ばゝ　来のようそひ
来ぬをまつ　一ひようれて涙を　弁をつゝ行りん也
一ことの　落柿　歌柿　毎年也　ようそ　枝ハ四十枝也

一こまのらんしやうう海ハ。ゆ碁也　乱碁落棋　舞
のゝそたに舞ゆ也。たの舞ハ唐。たの舞ハ高麗
一ひとりゑのうた　女三の歌　ようてちゝ也ハ
てゆうくとゆく也　一これあるひさつゝみ
先花　先泰天皇。文武天皇と　弾琴　行ゝ。時
うれのうゝけうたゝ
一こうれもうへ　きんよハ文のもうへうゝとりへり。河
一月橘　二よハ片　水字　四月　蒼海
波文　鳥鳴　是也　一五ちのもうを　今の世に
会　内　ゆり門　五六　ゆるゝ　破ゝ

ふるかいぶんの破笠をいふ也

一こうしゆせうでゐり給

紫上ゆやうの年也ぶんぶんの源氏よりせだうのうう

うくうぶん寒あてハナ爭をとることみくうと

一ふるひるく　沙汰をとるくびくさんと也

一ふくうくうくう

死て後は伯牙琴をやうこう後我琴を弾じ知音
者なしとて琴をくだきて弾ぜざりしかども
を伯牙絶弦を絶ちて以後一声をつたへる 呼 此系伯
牙乃ち琴の名人と柄本の知るとを云
一これ人とくきものべくやうやうして 落葉八起文意
を引のべさるものとの書れてのうの絶ること也
一これまたん面とをよろこぶ ちうさとを伐く柄本まで
りの伯牙名琴の名人也
一こうひあるさるれば の文 三国会中の新説
色二の里の故人心 一こうこやう 薬陰

一こうこうへば とく牧ゆるる物也
一こうあるさるて 重云あるとの多きこれたる中とてのか
まてのかたるる也 一はかなくて あるいはとを
るる也 一このよれるひ 天人のい
えるのべくる番也 三十二わ八双二の毛穴ようる
出る也 大悲 衆物者 おまはるる 対一実意
しる也 聖法たるる 四一人の ちるや ひ
のん也 一このまへ おまへ今て
えるる合えて 一うらく 松尾芭蕉
の菩薩のるる 一これをはまるる

琵琶を撥おさへ山の端の月を面白河也
李嬪琵琶詩云ぽ月ニ絃上ニ
一うひこびて恋のうらみ　我恋ひて君ゆ
とゝのゝ雲ゆ沼をけさうぶ死ぬんとゝつゝ
たゞひとりと我人をもうてその行也君の山ゆ八葉
のうたゝかゆ。恋のうら菜のゆしさにあゆふと也
一ゝざゝるに　恋ゆ八永法恋い恋おちれだん
ざゝるゝも
一この恋ハくゝゝハ恋ゆ
そゝゝを
園中花雞鳴清君浮れ二枝春ニ朗詠
一これ恋一枝ゆ寸　男ハ

一これゝゝ　好殺のつゝもちゝぶすと云んゝそゝハ
好ゝてゝ
一うゝゝひゝ　引腰一袴とちゝに交てゝ袴の
帯ゝ枝ちゝ抱也帯のあゝハてん袖ゝゝ。ゝゝも
恋帯ゝと云ん付ゝゝん袴を
一こゝゝひゝりゝ　毛延ゝの王昭君と云者昭
君貧ゝゝそゝゝつゝめ。今ゝゝゝゝゝゝ恋
ゝゝゝゝゝゝ

碁をうつの机の張紙の笠ちりゆへん

一こうねつくりあしらふ合せ合物也

一このもんさんはちへ寄、色の紙を造りあへうゆは紙

物べし

一ちやうのうく はしの紙

一ぐづもんぐん 權記行成

一こうさの舟 ここのこはうねを 合物ひ

梅檀赤

一長徳元年十月九日。於山階寺。新見牛一

けこと作て。緑青にて彩色也

一仏文のぐ 一鼎ら也 一ぐづ一ぐ ひるさはさ

ちるるもの物べし 一ぐづ一ぐ ひるさはさ

ぬ花ごとちるも

こうは あのうも也

んら也

一こうろく 江

一江さわ えうさわ物也 一江うまづく ちへで江

一ろうさ ぐれば 迎ろうもろ

物也

一江んま 鼎也

一江ひうまづくれ 食器のつれる紙ゆうとゆへ。

後まで行んはちよ心ゆまうさらの物也

一ろうさまげて ろを曲て。さーとちる紙を房色ぬる

をいう

又燒物の異名也。仮りの

一江ひのうぐいという。

一江ひのうぐいとそ河衣被者

蒲萄ハ葉ハ色也。実のくらさ色也

一ぶどうハ葉のそてのあり新曲のもの

如べし。青海波の実ハ黄也。実脂の人妻

一ぶどうのもさ多へる　縫ハ冠のもの也。実脂の人妻

縫

一ひのうぐいハ酒

白樂天ぐ沙へた遣して三月晦日ハ黄陵と

云事ハ而て元微之ハ別の白也

酔悲纏涙春盃裏吟若夕顔曉燭前

一延喜の法ひとうぐいハ花あやまる

ぐとの作ハ云ぐ元ぐ沙へ

て作れとハ石金の筆ハ延喜門うぐいて

ぐ法ハ女のあぐぐうぐいハ石上の軒

れ上ぐるもの上へたのうぐ出るもぐ

ハ延喜門也

一江びうぐして　蒲萄

鬢也ぐさるのみぐぐ

ひとぐうぐれぐとぐれぐをもけるへうくれバえ

ぐとぐとぐんあまへるぐ　後成女説

一ぐう　廻向

一北海のもの　近衛殿

少将公家人あり也。公卿の家に来子也。まとや
一ゑぼしぶり礼義也。一河ゑ
一はるゝ也。絶也。はるゝ
一ゑぶり笑ぶり也

て

一てゝ車の後のまくり　輦車作出さる也。河
輦車は石階のゑる所のゑ門ゑりのゑ。中ノ宮と出入
のゑ也。中ノ宮の輦車とも云。牛車は牛ぬる所
まくりのゑ也。花今安楽温明殿後涼殿ゑ入れ
の入門内の後也。温明殿は内侍のかり寄子後

也。東の宣陽門は中ゑ。後涼殿は西の法明
門の内ゑあり。しば巻の間ゑ。ゑゑゑてんゑ
ゑゑ。ゑゑゑひゑゑ。ゑ変のぎうしゑ。ゑゑゑ也
ゑてゑゑゑ。ゑゑゑ

一三十三院　寛平法皇の院なり也。延喜の父院
門宇多の帝とぞ申也。ぱ絵もとり也。詞書。
寄せ物なべて　紅葉もぬるるまでとぞ　すまる和
へとのあり人。袖の湿りなり。ぱ工。能。彩色。院乃
はくもあてうるはまへらゆ。伊勢集。よの也。
一てし　湿とのえ也　一てよつてて　ぬしつて
へ。ぬ。ぬ。ぬ

と双紙よりこぬんも　一度上人の邸宅の西去文
のうるもくちゝ花　度上人の禁中まうぢ
ず。院の度上べ東文の度上人ちがてぞ文ぢ
よゆ紙されて暴度ぞ
中まうひうるもとうるべし。院ゆて暴度し
うることゝ。内裏みていまゝ暴度をぢゝ度
上の度よちうるうるもうるもうく
一てうく　調手也　一てうさ宮ゝ結　手掻
人ちうゝ度ぢゝ云よ度ぢてゝぞみていうゝ
ゆ結云也　一天人のあまうれる

くや脇を修れ新うゝてうしよ家の中ひう
うゝ八月十文新よ天よのうりしも
文のうゝ
一てうく　天狗と云ハ星の名。なれよ用るこゝ。
天魔の勢よいう